

## 令和元年度教育委員会が行う点検・評価の結果報告について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）」第26条により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表することとされている。このことについて、本年度実施した点検・評価に係る報告書をまとめたので、報告する。

### 記

#### 1 根拠規定

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）第26条

#### 2 点検・評価の対象

点検・評価は、「板橋区教育ビジョン2025」を実現するため、平成28年3月に策定した、板橋区教育振興推進計画「いたばし学び支援プラン2018」の9つの重点施策に関する事業及びすべての方向性に共通する事業を対象としている。また、教育委員会が重点的に取り組むものとして「服務規律の確保（体罰・個人情報）」及び「教職員の働き方改革」を特別に評価すべき事業に指定し、同時に点検・評価を行った。

※対象事業については、本編12～13ページを参照

#### 3 点検・評価の方法

##### (1) 点検・評価の流れ

教育委員会が行う点検・評価の実施にあたっては、前年度（平成30年度）に実施した各事務事業を対象として、重点施策ごとに点検・評価を行った。一次評価については、所管課長が事務事業単位で評価し、その評価を踏まえ所管部長が施策評価を実施した。また、一次評価を基に外部評価委員による外部評価を経た上で、それらを踏まえた教育委員会としての二次評価（最終評価）を決定した。

※評価評語等については、本編15～16ページを参照

##### (2) 外部評価委員による評価

地教行法に基づき、点検・評価の客観性や公正性を確保し、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図るため、学識経験者2名を含む、下記の4名による外部評価を実施した。

長沼 豊 委員【学習院大学 教授】  
今井 英彦 委員【武蔵大学 教授】  
横川 隆之 委員【板橋区立小学校PTA連合会会長】  
岩井 成一 委員【板橋区立中学校PTA連合会会長】

#### 4 点検・評価の結果概要

別紙「令和元年度 教育委員会が行う点検・評価」結果概要を参照

#### 5 報告書の公表

区議会への報告、区のホームページへの掲載、区政資料室・教育委員会事務局・図書館での閲覧を行う。

## 「令和元年度 教育委員会が行う点検・評価」結果概要

## 1 施策評価 ※特別に評価すべき事業を含む

施策番号	施策名	二次評価		外部評価		一次評価 (成果)
		評語	改善の方向性	評語	改善の方向性	
重点施策 1	確かな学力の定着・向上	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 2	豊かな人間性の育成	概ね順調	事業手法の見直し	概ね順調	事業手法の見直し	順調
重点施策 3	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 4	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備	概ね順調	事業手法の見直し	概ね順調	目標値・指標の見直し	順調
重点施策 5	保幼小中のつながりがある教育の実現	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 6	安心・安全な教育の推進と学校環境の整備	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 7	地域による学び支援活動の促進	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 8	生涯学習社会へ向けた取組の充実	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
重点施策 9	家庭における教育力向上への支援	概ね順調	事業手法の見直し	概ね順調	事業手法の見直し	順調
共通	すべての方向性に共通する事業	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	順調
特別	服務規律の確保（体罰・個人情報保護） 教職員の働き方改革	順調	工夫して継続	順調	工夫して継続	—※

※「特別に評価すべき事業」については、一次評価は事務事業評価のみ実施、外部評価・二次評価については、2事業をまとめて評価しています。

## 2 事務事業評価

対象事業：67事業、特別に評価すべき事業：2事業 計69事業

評価評語	「改善の方向性」			
	工夫して継続	事業手法の見直し	目標値・指標の見直し	事業の廃止
順調	51	—	2	—
概ね順調	—	6	1	—
停滞	—	3	—	—
達成	—	—	—	4
未達成	—	2	—	—

## 点検・評価結果概要《本編 P. 17～P. 24》

### (1) 二次評価【教育委員会としての最終評価】《本編 P. 29～P. 41》

教育長及び教育委員の5名により、一次評価及び外部評価結果を踏まえ、11施策について評価を実施した。「いたばし学び支援プラン 2018」の取組の総括として、8施策が「順調」となり、一定の成果を上げることができたものといえる。「概ね順調」となった3施策については、事務事業を見直し、改善する必要がある。

#### 【「概ね順調」となった施策に対する主な意見】

- ・従来の不登校対策事業だけでなく、専門家からの助言をいただくなど、新たな取組が必要である。家庭教育支援チーム等、家庭や地域等が連携し、児童・生徒に寄り添った対応のできる仕組みを充実させること。
- ・SDGsに掲げる「誰一人取り残さない」という理念について、教育委員会のすべての施策に結びつける発想をもち、各事業に取り組むこと。

二次評価（最終評価）結果を踏まえ、従来のやり方にとらわれることなく、新たな視点、新たな発想で、事務事業を見直し、教育ビジョンに掲げる「教育の板橋」実現に向け、効果的な事業運営を進めていく。

### (2) 外部評価【学識経験者等による施策評価】《本編 P. 42～P. 47》

学識経験者2名を含む4名の外部評価委員により、一次評価結果を踏まえて、各所管課長とのヒアリングを実施し、施策に対する各事務事業の適正性や貢献度等の視点で11施策について評価を実施した。外部評価においても、「順調」が8施策、「概ね順調」が3施策となった。

#### 【「概ね順調」となった施策に対する主な意見】

- ・子どもや学校、保護者の間で、いじめに対する認識に相違があるのではないかと。保護者に対してもアンケートなどを実施し、啓発を進めていくこと。
- ・不登校対策を充実させるためにも、スクールソーシャルワーカーの人員配置等、事業の見直しを図ること。また、家庭教育支援チームの役割等、保護者に対して、広く情報を発信していくこと。

### (3) 一次評価【所管部長による施策評価】《本編 P. 48～P. 53》

所管課長による事務事業評価を踏まえ、所管部長により、10施策（特別に評価すべき事業を除く）について施策評価を実施した。各施策に対する事務事業の成果はすべて「順調」となったが、周辺環境（法改正、社会状況等）の変化への対応状況が「検討中」となった施策が3施策あり、めまぐるしく変化する社会に対し、柔軟な対応が必要である。

#### 【「検討中」となった施策】

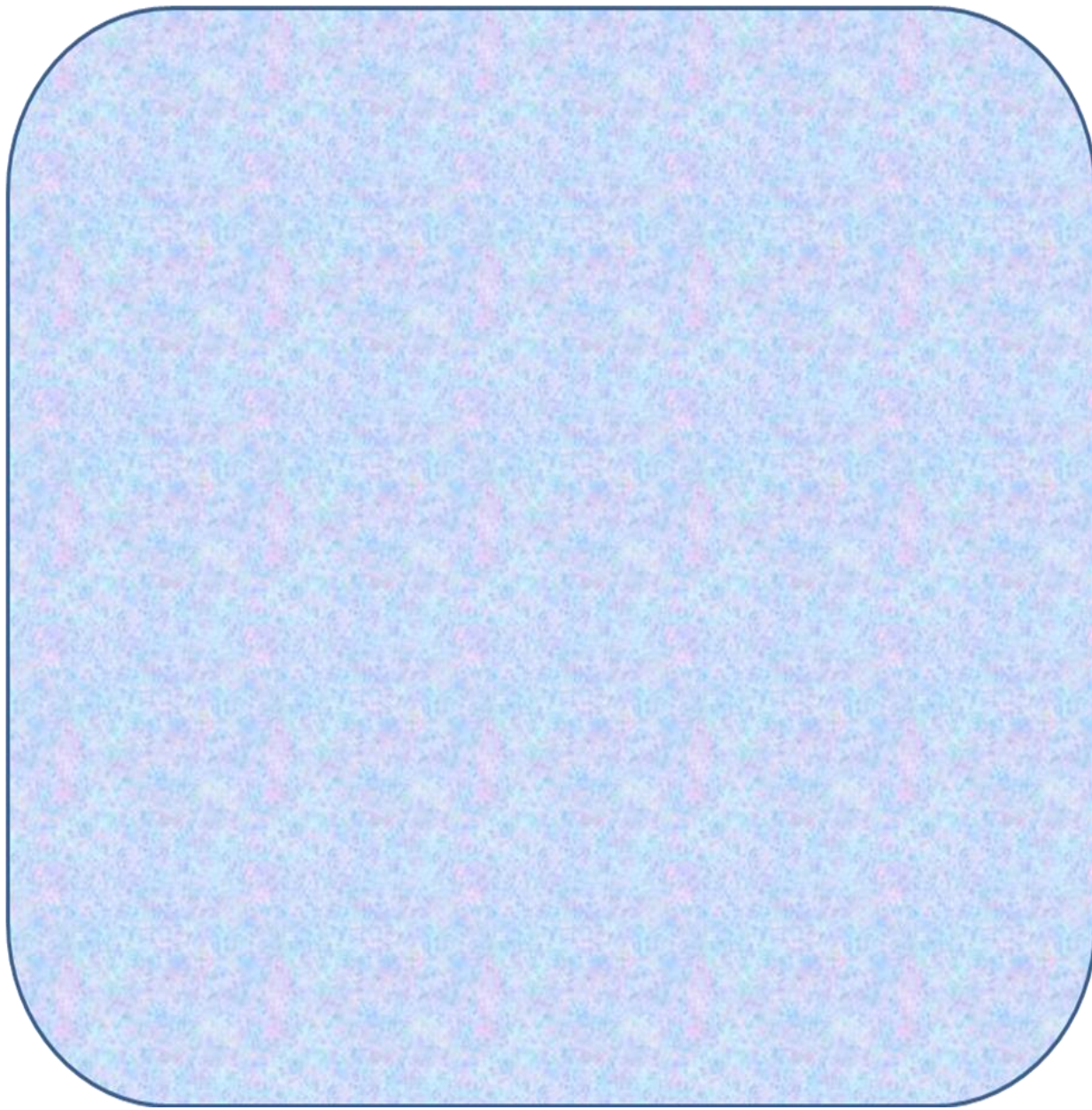
- ・重点施策4：不登校出現率は依然として高く、区全体としての対応指針を検討
- ・重点施策7：あいキッズ事業での利用区分見直しと学習支援などの利用者要望への対応を検討
- ・重点施策8：史跡公園グランドオープン前の一般公開等による活用方法を検討

### (4) 一次評価【所管課長による事務事業評価】《本編 P. 54～P. 71》

令和元年度は、69の事務事業（特別に評価すべき事業を含む）について、各所管課長による評価を実施した。約8割の事業は順調に進捗している結果となったが、「停滞」「未達成」となった事業については、課題解決に向け、対策を検討し、改善していく。

#### 【「停滞」「未達成」となった事業】

- ・不登校対策事業
- ・子どもの読書の機会拡大
- ・行動体力の向上に関する事業
- ・地域人材の育成支援事業



令和元年度  
教育委員会が行う点検・評価

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に関する点検評価】

報 告 書

令和元年10月 板橋区教育委員会



# はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条により、教育委員会の責任体制の明確化の観点から、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、平成 30 年度の板橋区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果をまとめたものです。

今年度は、「板橋区教育ビジョン 2025」を実現させるための実施計画である、「いたばし学び支援プラン 2018」に掲げるすべての事業と、特別に評価すべき事業として「服務規律の確保（体罰・個人情報）」及び「教職員の働き方改革」を指定し、点検及び評価を実施しています。

今回の結果を踏まえ、「板橋区教育ビジョン 2025」に掲げる「“いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！” 地域が支える教育の板橋」、「“学び合う、学び続ける人づくり！” 地域を創る教育の板橋」の実現に向け、施策・事業を改善し、学校・家庭・地域・教育委員会が一体となり、より一層効果的な教育行政の推進に努めてまいります。

令和元年 10 月

板橋区教育委員会

# 目次

## はじめに

### I 教育委員会の活動状況

- 1 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 教育委員会会議での審議状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 教育委員会以外の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### II 教育委員会が行う点検・評価の制度と概要

- 1 点検・評価の根拠規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 点検・評価の導入目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

### III 板橋区教育委員会が行う点検・評価について

- 1 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2 点検・評価のプロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 3 評価評語と改善の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 4 点検・評価結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 5 点検・評価 検討経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

### IV 点検・評価結果

- 各重点施策 評価結果 該当ページ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 1 二次評価【教育委員会としての最終評価】結果・・・・・・・・・・ 29
  - 2 外部評価【学識経験者等による評価】結果・・・・・・・・・・ 42
  - 3 一次評価【所管部長による施策評価】結果・・・・・・・・・・ 48
  - 4 一次評価【所管課長による事務事業評価】結果・・・・・・・・・・ 54
  - 5 平成30年度 教育委員会が行う点検・評価の二次評価結果への対応状況 72

# **I 教育委員会の活動状況**





## 1 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、毎月原則第2・4木曜日に「定例会」を開催するとともに、必要に応じて、随時、「臨時会」を開催しています。平成30年は26回開催しました。

- |              |     |
|--------------|-----|
| (1) 教育委員会定例会 | 23回 |
| (2) 教育委員会臨時会 | 3回  |

## 2 教育委員会会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下、「地教行法」という。)第21条に基づき、平成30年は39件について審議しました。

- |                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針        | 3件  |
| (2) 教育委員会規則・規程の制定及び改廃             | 15件 |
| (3) 教育予算その他議会の議決を経るべき事件についての意見申し出 | 3件  |
| (4) 教育財産の取得及び用途廃止                 | 1件  |
| (5) 職員の人事に関する事                    | 2件  |
| (6) 教科書の採択に関する事                   | 6件  |
| (7) 指定管理者に関する事                    | 5件  |
| (8) 文化財の指定及びその解除                  | 3件  |
| (9) 教育委員会の点検・評価に関する事              | 1件  |

審議案件の他、請願審査及び報告事項等についても取り扱いました。

## 3 教育委員会以外の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、学校訪問、各種行事等にも積極的に参加しています。

教育委員の活動内容

- (1) 委員会の会議及びこれに準ずる会議等
  - ①教育委員会(定例会・臨時会)
  - ②教育懇談会
  - ③校長会出席
  - ④教育施策連絡会
  - ⑤運動会視察
  - ⑥学校整備週間後の学校視察
- (2) 教育委員会を代表して出席する行事
  - ①大学公開講座(開校式・閉校式)
  - ②中学校総合体育大会

- ③周年行事式典
- ④各コンクール表彰式
- ⑤成人の日のつどい
- ⑥郷土芸能関係出席
- ⑦幼稚園・小学校・中学校 卒園・卒業式
- ⑧中学生との交流会

(3) その他の活動（随時の活動を含む）

- ①学校公開・授業公開の参加
- ②研究発表会参加
- ③学校運営連絡協議会の状況把握
- ④指定管理者選定関係
- ⑤各学校の教育方針の研究、学校便り等の供覧、研究に関すること
- ⑥地域への教育関係行事への参加
- ⑦行政委員懇談会
- ⑧新年賀詞交換会

## **Ⅱ 教育委員会が行う点検・評価の制度と概要**



## 1 点検・評価の根拠規定

地教法第26条で、教育委員会は、教育委員会の責任体制の明確化の観点から、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

## 2 点検・評価の導入目的

教育委員会制度は、区市町村長から独立した機関であり、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育事務を執行するものです。

教育委員会に属する事務の管理及び執行状況について、教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果を公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、区民への説明責任を果たすことを目的としています。

点検・評価の具体的な項目や指標については、国では項目等を定めず、各教育委員会が実状を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善します。

## 3 学識経験の知見の活用

点検及び評価を行うに当たっては、客観性を確保するため、点検・評価の方法や結果について意見を聴取する機会を設けるなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることが規定されています。



### **Ⅲ 板橋区教育委員会が行う点検・評価について**



## 1 点検・評価の対象

板橋区教育委員会では、平成 27 年度に改定された「板橋区基本構想」及び区長と教育委員会で協議・調整し、決定した「板橋区教育大綱」を受け、中長期的な教育の指針となる「板橋区教育ビジョン 2025」を平成 28 年 3 月に策定しました。

「板橋区教育ビジョン 2025」では、今後 10 年間における「いたばしの教育」のあるべき姿・将来像を 2 つ掲げ、その将来像の実現に向け、教育が中心的に担う人づくりの 3 つの基本的方向性を定めています。また、「板橋区教育ビジョン 2025」実現に向け、「いたばし学び支援プラン 2018」（板橋区教育振興推進計画）を策定し、具体的な施策を推進しています。

「いたばし学び支援プラン 2018」では、体系化された「板橋区教育ビジョン 2025」の 3 つの基本的方向性を基に、その関連性を踏まえて、優先的に実施すべき 9 つの重点施策と、32 の重点事業を掲げています。（「板橋区教育ビジョン 2025」の全体像及び重点施策、重点事業の体系については、11 ページ～13 ページを参照してください。）

点検・評価の対象は、「いたばし学び支援プラン 2018」の 9 つの重点施策に関するすべての事業及びすべての方向性に共通する事業としています。なお、令和元年度は、教育委員会が重点的に取り組むものとして、「服務規律の確保（体罰・個人情報保護）」と「教職員の働き方改革」を特別に評価すべき事業に指定し、同時に点検・評価を行いました。

## 板橋区教育ビジョン2025(平成28年度～令和7年度)

### めざす将来像

“いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！” 地域が支える教育の板橋

“学び合う、学び続ける人づくり！” 地域を創る教育の板橋

### めざす人間像

- 心身ともに健康で豊かな感性をもち、思いやりのある人
- 自分の意見をもち、伝え、他人の意見も聴く姿勢をもつ人
- 規範意識を身に付け、自ら考え、判断し、行動することのできる自立した人
- 基礎学力の習得とその活用により、ものごとの本質を考えられる人
- ものごとに協働して取り組み、果敢に挑戦する人

### 未来を担う人に必要とされる資質・能力

- 主体的に課題を発見し、解決に導く力
- 協働して課題解決に取り組む力
- 失敗を恐れずチャレンジする力

**自尊感情・自己肯定感**  
**郷土“板橋”を愛する心**

## 3つの基本的方向性

### 子どもの学びを保障する教育環境の確保

- ④ 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備
- ⑤ 保幼小中のつながりある教育の実現
- ⑥ 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備

### これからの社会を生き抜く力の育成

- ① 確かな学力の定着・向上
- ② 豊かな人間性の育成
- ③ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進

### 地域と共に学び合う教育の推進

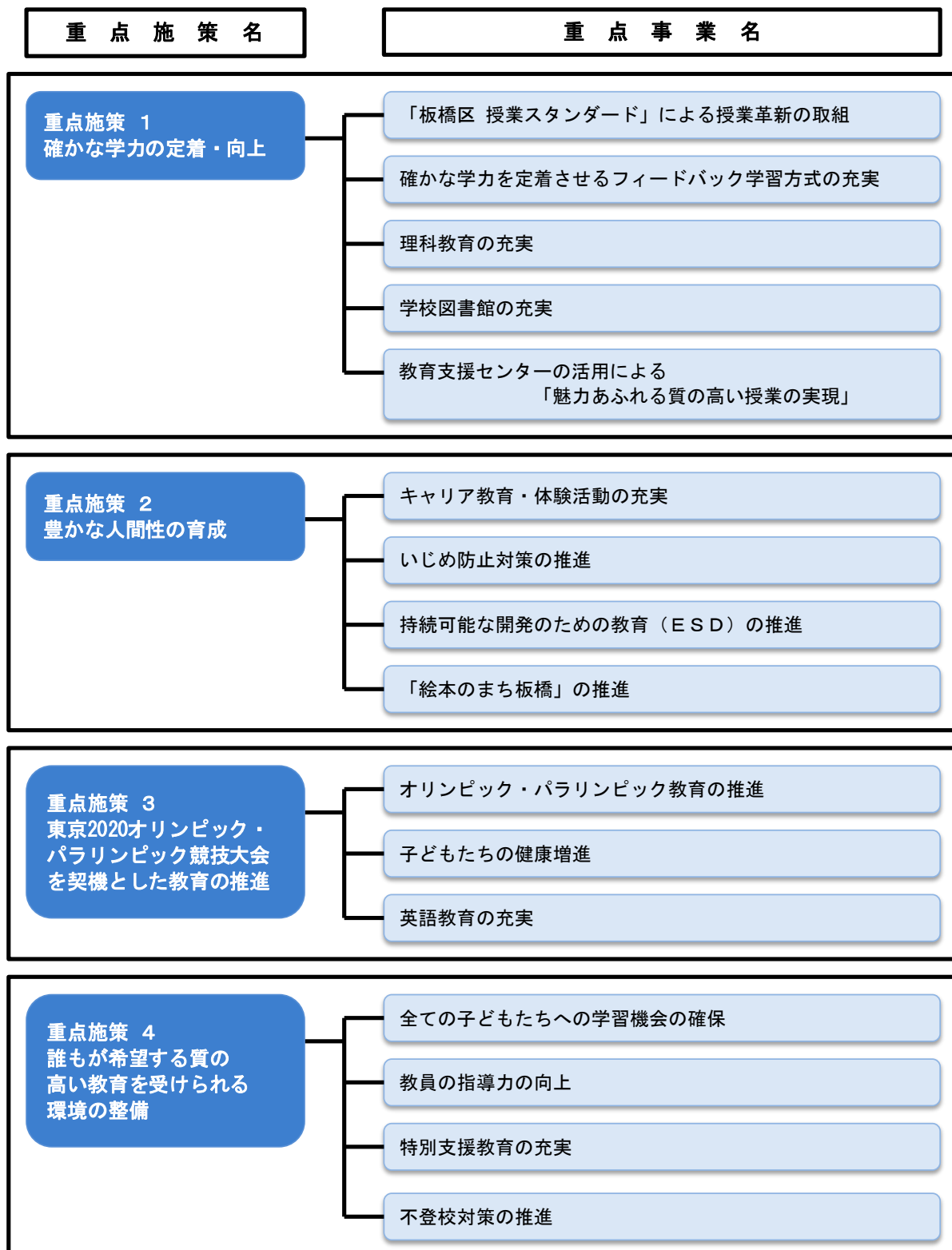
- ⑦ 地域による学び支援活動の促進
- ⑧ 生涯学習社会へ向けた取組の充実
- ⑨ 家庭における教育力向上への支援

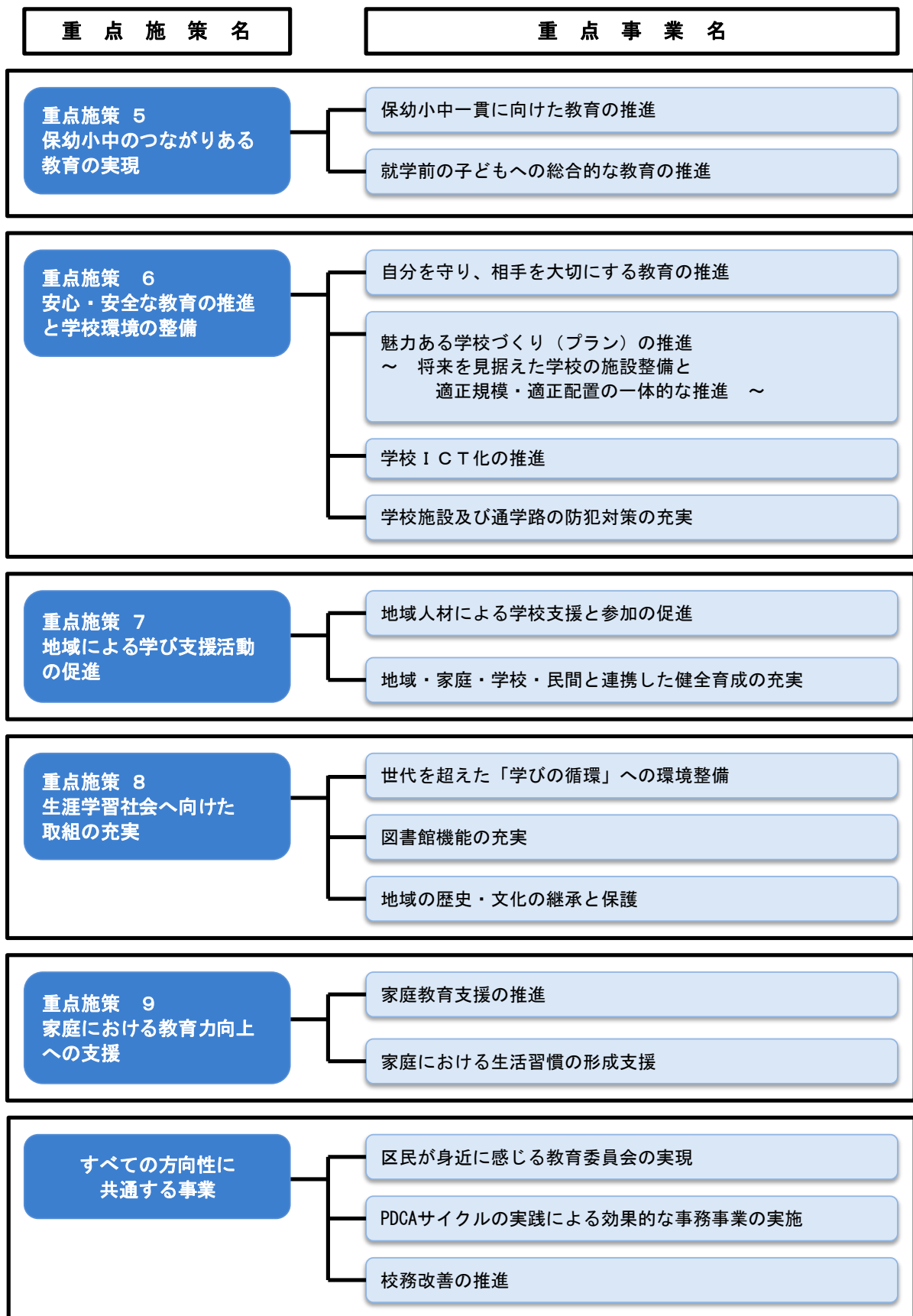
## 9つの重点施策

### それぞれの役割

- **幼稚園・学校**は、子どもたちの未来を担う力を引き出し、夢へつなげます
- **家庭**は、子どもとともに育ちながらやすらぎを与え、好ましい生活習慣や規範意識を身に付ける場としての役割を果たします
- **教職員**は、子どもの現在だけでなく将来をも意識し、指導力の向上に努め、子どもと向き合います
- 「地域の子は**地域**が育てる」との意識で、子どもの育ちを支えるとともに、子どもとの関わりを通して、大人も学び続ける生涯学習社会を築きます
- **教育委員会**は、教育現場を大切に、子どもの育ちや家庭・教職員・地域の教育を支えます

【いたばし学び支援プラン 2018 重点施策及び重点事業の体系】





## 2 点検・評価のプロセス

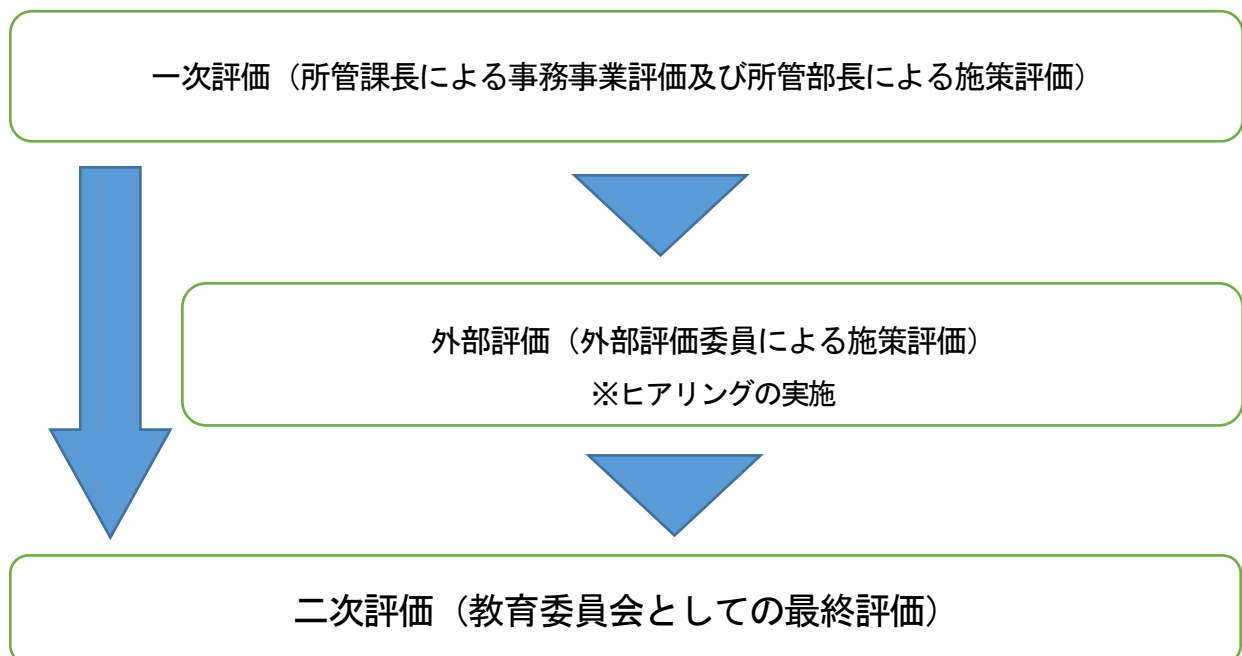
- (1) 教育委員会が行う点検・評価の実施にあたっては、前年度に実施した各事務事業を対象として、重点施策ごとに点検・評価を行います。現状や背景を踏まえ、施策を実現するための主な事業の実績等を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の対応についての方向性を示しています。
- (2) 地教行法に基づき、点検・評価の客観性や公正性を確保するため、学識経験者2名を外部評価委員として登用しています。また、学習指導要領に基づく教育活動、「いたばし学び支援プラン 2018」に掲げる新たな取組、保護者からの多様な要望に対する適切な学校運営のあり方等について検討していくため、学識経験者2名に加え、保護者代表2名を登用し、4名の外部評価委員により評価を実施します。

令和元年度の外部評価委員は下記の4名です。

### 【外部評価委員】

- 長沼 豊 学習院大学教授
- 今井 英彦 武蔵大学教授
- 横川 隆之 板橋区立小学校PTA連合会会長
- 岩井 成一 板橋区立中学校PTA連合会会長

- (3) 点検・評価の流れは、下記のとおりです。



### 3 評価評語と改善の方向性

施策及び事務事業について、表（１）のとおり、①「評価評語」と②「改善の方向性」を組み合わせ、評価します。「評価評語」は、主に、施策や事務事業が目標に対してどの程度進捗しているかを示し、「改善の方向性」は、施策や事務事業が順調に推移し、継続性のある場合でも、改善や工夫を前提として次につなげていく方向性を示すものです。

「評価評語」と「改善の方向性」は、一次評価（所管課長による事務事業評価）・外部評価及び二次評価で共通のものを用いています。なお、一次評価のうち所管部長による施策評価については、施策に対する各事務事業の成果や手段の妥当性、環境変化への対応状況など、より詳細な評価を実施するため、表（２）の「評価評語」を用いて評価し、今後の展開方針を示しています。

前年度（平成30年度）の点検・評価における二次評価結果への各課の対応状況について、一次評価（所管課長による事務事業評価）と同時に調査を実施しています。評語は表（３）のとおりです。

表（１）二次評価・外部評価・一次評価（所管課長による事務事業評価）の評価評語等

#### ①評価評語

順 調	目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める状態
概ね順調	必ずしも上向き傾向ではないが、ある程度のレベルで進捗し、事業の継続により目標達成が期待できる状態
停 滞	目標に対して進展していない状態
達 成	計画どおり、または計画より早く進捗し、事業目標を達成した状態
未 達 成	目標を達成しなかった場合

#### ②改善の方向性

工 夫 し て 継 続
事 業 手 法 の 見 直 し
目 標 値 ・ 指 標 の 見 直 し
事 業 の 廃 止

表（２）一次評価（所管部長による施策評価）評価評語等

#### ①成果の分析

順 調	目標の達成に向け順調に進捗し、事業継続により目標達成が見込める状態
概ね順調	必ずしも上向き傾向ではないが、ある程度のレベルで進捗し、事業の継続により目標達成ができる状態
停 滞	目標に対して進展していない状態
達 成	計画どおり、または計画より早く進捗し、事業目標を達成した状態
未 達 成	目標を達成しなかった場合

#### ②手段の分析

妥 当	効果的に事業が実施されており、手段として妥当性がある。
概ね妥当	概ね効果的に事業が実施されており、手段として妥当性がある。
見 直 し	新規事業の検討や、既存事業の見直しが必要である。

### ③環境変化の分析

周辺環境（法改正、社会状況、区民のニーズ等）の変化への対応状況を「対応済」、「一部対応済」、「検討中」、「対応困難」から選択する。

表（3）平成30年度 教育委員会が行う点検・評価の二次評価結果への対応状況

対 応 済	概ね指摘事項への対応が完了している。
一部対応済	指摘事項の一部でも対応が完了している。（令和元年度の予算措置や人員措置等を行っていないが、審議会や検討会等により対応に着手している場合を含む）
検 討 中	指摘事項への対応を検討している。
対 応 困 難	指摘事項への対応が困難である。

#### 4 点検・評価結果概要

令和元年度は、9つの重点施策とすべての方向性に共通する事業、特別に評価すべき事業をあわせ、11施策の施策評価を実施しました。また、事務事業については、9つの重点施策に関する事業が62事業、すべての方向性に共通する事業が5事業、特別に評価すべき事業が2事業で、あわせて69事業の事務事業評価を実施しました。事務事業評価と同時に、平成30年度に実施した点検・評価の二次評価結果への対応状況を調査しています。各評価結果及び二次評価結果への対応状況の詳細については、「Ⅳ 点検・評価結果」(27ページ～90ページ)に記載しています。

施策評価及び事務事業評価の結果概要は以下のとおりです。

##### (1) 二次評価【教育委員会としての最終評価】の結果概要

教育長及び教育委員の計5名により、一次評価及び外部評価結果を踏まえ、11施策について評価しました。11施策について、「評価評語」と「改善の方向性」の組み合わせ別に見ると、「順調／工夫して継続」が8施策となり、「概ね順調／事業手法の見直し」が3施策となりました。「いたばし学び支援プラン2018」の最終年度である平成30年度に対する評価として、順調に進捗した施策が7割を超えており、3年間の取組により、一定の成果を上げることができたものといえます。しかしながら、「順調」とならなかった3施策については、事務事業を見直し、改善につなげていく必要があります。

##### 【二次評価（教育委員会としての最終評価）結果】

番号	重点施策名	評価評語	改善の方向性
1	確かな学力の定着・向上	順 調	工夫して継続
2	豊かな人間性の育成	概ね順調	事業手法の見直し
3	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進	順 調	工夫して継続
4	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備	概ね順調	事業手法の見直し
5	保幼小中をつながりある教育の実現	順 調	工夫して継続
6	安心・安全な教育の推進と学校環境の整備	順 調	工夫して継続
7	地域による学び支援活動の促進	順 調	工夫して継続
8	生涯学習社会へ向けた取組の充実	順 調	工夫して継続
9	家庭における教育力向上への支援	概ね順調	事業手法の見直し
共通	すべての方向性に共通する事業	順 調	工夫して継続
特別	特別に評価すべき事業	順 調	工夫して継続



「概ね順調／事業手法の見直し」となった施策は、「重点施策2 豊かな人間性の育成」、「重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」、「重点施策9 家庭における教育力向上への支援」です。

重点施策2では、小学校では良い事例もみられるアントレプレナーシップ教育であるが、中学校ではほとんどなされていない状況にあるとの指摘がありました。中学校における「職場体験＝キャリア教育」という発想ではなく、小学校6年間、中学校3年間のカリキュラムや教育活動を義務教育9年間という視点で、計画的、継続的につなげていけるように、アントレプレナーシップ教育を見直すことが求められました。また、教育はすべてのSDGs（持続可能な開発のための目標）の基礎であるとの考えから、SDGsで掲げる「誰一人取り残さない」という理念について、教育委員会のすべての施策に結びつける発想をもち、各事業に取り組んでほしいとの意見がありました。

重点施策4では、板橋区では依然として不登校出現率が高いことから、不登校改善重点校事業などの従来の取組だけではなく、専門家から助言をいただくなど、新たな取組が必要であるとの指摘がありました。学校復帰だけを目標とするのではなく、家庭や地域との連携、社会教育や福祉関係機関との連携により、不登校児童・生徒に寄り添う仕組みと居場所のさらなる確保の充実が求められました。

重点施策9では、家庭教育支援チームのモデル実施の開始に伴い、課題も見えてきたと考えられるので、学校と民生・児童委員、家庭がどのように連携できるのか、また、不登校児童・生徒やその保護者に、いかに寄り添った対応ができるのか、教育委員会、学校、民生・児童委員が一体となって不登校対策に取り組むことが求められました。

こうした意見を踏まえ、各所管課においては、従来の方方法にとらわれることなく、新たな視点、新たな発想をもって、事務事業を見直していきます。そして、教育ビジョンに掲げる「教育の板橋」を実現するため、より効果的な事業運営を進めてまいります。

(2) 外部評価【学識経験者等による評価】の結果概要

外部評価は、前述の外部評価委員4名（学識経験者2名、保護者代表2名）により、一次評価結果に基づき、各所管課長とのヒアリングを実施し、施策に対する各事務事業の適正性や貢献度等の視点で、11施策について評価をいただきました。「評価評語」と「改善の方向性」の組み合わせ別に見ると、「順調／工夫して継続」が8施策となり、「概ね順調／事業手法の見直し」が2施策、「概ね順調／目標値・指標の見直し」が1施策という結果になりました。外部評価においても、施策の7割以上が順調に進捗しているとの評価となりました。ただし、「順調」とならなかった3施策については、事業指標や事業手法の見直しを求められており、この結果を真摯に受け止め、改善に取り組まなければなりません。

【外部評価（学識経験者等による評価）結果】

番号	重点施策名	評価評語	改善の方向性
1	確かな学力の定着・向上	順 調	工夫して継続
2	豊かな人間性の育成	概ね順調	事業手法の見直し
3	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進	順 調	工夫して継続
4	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備	概ね順調	目標値・指標の見直し
5	保幼小中のつながりある教育の実現	順 調	工夫して継続
6	安心・安全な教育の推進と学校環境の整備	順 調	工夫して継続
7	地域による学び支援活動の促進	順 調	工夫して継続
8	生涯学習社会へ向けた取組の充実	順 調	工夫して継続
9	家庭における教育力向上への支援	概ね順調	事業手法の見直し
共通	すべての方向性に共通する事業	順 調	工夫して継続
特別	特別に評価すべき事業	順 調	工夫して継続

「概ね順調／目標値・指標の見直し」となった施策は、「重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」です。

この施策については、不登校児童・生徒が増えている中で、スクールソーシャルワーカーが対応する件数が増加し、オーバーワークになっているのではないかと指摘がありました。充実した不登校対策を行うためにも、人員配置や事業の見直しを図ることが求められました。

「概ね順調／事業手法の見直し」となった施策は、「重点施策2 豊かな人間性の育成」と「重点施策9 家庭における教育力向上への支援」です。

重点施策2では、いじめに対する認識が、子ども・保護者・学校で相違があるのではないかとこの意見がありました。子どもたちだけではなく、保護者に対してもいじめに関するアンケートを実施するなど、保護者への啓発を進めていくよう求められました。

重点施策9では、不登校児童・生徒の保護者に対し、周囲の助けがどこで得られるのか、家庭教育支援チームがどう対応してくれるのか、広く情報を発信していくことが必要であるとの意見がありました。また、年齢別講座についても、家庭での教育力向上に効果が期待できる取組であり、参加者を増やすためにも広報を工夫していくよう求められました。

外部評価委員の客観的な立場からの貴重なご意見を踏まえ、各事務事業の見直しを図り、より区民のニーズに沿った事業運営に努めてまいります。

### (3) 一次評価【所管部長による施策評価】の結果概要

所管課長による事務事業評価結果を踏まえ、所管部長により、10 施策（特別に評価すべき事業を除く）について評価を実施しました。各事務事業の施策に対する成果、手段の妥当性、周辺環境（法改正、社会状況、区民ニーズ等）の変化への対応状況について分析を行い、今後の施策の展開方針をまとめています。

施策に対する各事務事業の成果については、すべての施策において「順調」となりました。手段の妥当性については、「妥当」が9施策、「概ね妥当」が1施策となりました。また、周辺環境の変化への対応状況については、「対応済」が6施策、「一部対応済」が1施策、「検討中」が3施策となりました。施策を構成する事務事業の手段は妥当であり、その事務事業が一定の成果をあげたことにより、順調に進捗したものといえます。しかしながら、周辺環境の変化への対応状況が「検討中」となっている施策については、めまぐるしく変化する社会に対し、柔軟かつ迅速に対応し、より一層効果的、効率的な事業運営をしていかなければなりません。

#### 【一次評価（所管部長による施策評価）結果】

番号	重点施策名	成果	手段	環境変化
1	確かな学力の定着・向上	順調	妥当	対応済
2	豊かな人間性の育成	順調	妥当	対応済
3	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進	順調	概ね妥当	対応済
4	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備	順調	妥当	検討中
5	保幼小中のつながりある教育の実現	順調	妥当	対応済
6	安心・安全な教育の推進と学校環境の整備	順調	妥当	一部対応済
7	地域による学び支援活動の促進	順調	妥当	検討中
8	生涯学習社会へ向けた取組の充実	順調	妥当	検討中
9	家庭における教育力向上への支援	順調	妥当	対応済
共通	すべての方向性に共通する事業	順調	妥当	対応済
特別	特別に評価すべき事業※	—	—	—

※事務事業評価のみ実施

周辺環境への変化の対応状況が「検討中」となった施策は、「重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」と「重点施策7 地域による学び支援活動の促進」、「重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実」です。

重点施策4については、不登校改善重点校事業等、対策を進めているにも関わらず、依然として不登校出現率が高い水準のままとなっており、事務事業の見直しなどを検討し、対応していきます。

重点施策7では、区民から、あいキッズ事業の利用区分が複雑でわかりにくいといった意見や、学習支援を充実してほしいという要望をいただいております、早急に対応を進めていきます。

重点施策8では、史跡公園について、グランドオープンに向け計画的に整備を進めてはいるものの、公開前の活用方法が課題となっており、平成30年度に文化財講座で限定的に実施した一般公開が好評だったことから、一般公開事業の拡充を検討していきます。

分析結果を踏まえ、施策の抱える課題や懸案事項を含め、今後、施策をどう展開していくのかについて、施策ごとにまとめています。(48ページ～53ページ参照)

各施策における課題に対応し、板橋区の子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要となる資質・能力を育成していくため、各事務事業に取り組んでまいります。

(4) 一次評価【所管課長による事務事業評価】の結果概要

所管課長により、69 の事務事業（特別に評価すべき事業を含む）について評価しました。「評価評語」と「改善の方向性」の組み合わせ別に見ると、「順調／工夫して継続」が51 事業となり、全体の8割弱を占めています。「順調／目標値・指標の見直し」が2 事業、「概ね順調／事業手法の見直し」が6 事業、「概ね順調／目標値・指標の見直し」が1 事業、「停滞／事業手法の見直し」が3 事業、「達成／事業の廃止」が4 事業、「未達成／事業手法の見直し」が2 事業となりました。

【一次評価（所管課長による事務事業評価）結果】

■評価評語と改善の方向性の組み合わせ別内訳

		改善の方向性			
		工夫して継続	事業手法の見直し	目標値・指標の見直し	事業の廃止
評価評語	順調	51	—	2	—
	概ね順調	—	6	1	—
	停滞	—	3	—	—
	達成	—	—	—	4
	未達成	—	2	—	—

「順調／目標値・指標の見直し」となった事業は、「学校支援地域本部事業の拡大」と「中央図書館の改築」です。学校支援地域本部事業については、全校実施を達成したこと及び地域コーディネーターや学校支援ボランティアの人数も順調に増え、目標値を達成したこともあり、新たな目標値や指標を検討していきます。また、中央図書館の改築についても、基本設計及び実施設計が完了し、工事を開始したことから、今後は新たな中央図書館での事業やサービス、運営体制についての具体的な検討を進めていきます。

「概ね順調／事業手法の見直し」となった事業には、「アントレプレナーシップ教育の導入・推進」が含まれています。アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れ、見直しを図った副読本を各学校へ配付・活用していくことで、児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な資質や能力を育成していきます。また、「年齢別講座の実施」については、「子育て記念日」などの集会事業において、子育てに関わる区民が多様な世代との交流を促す機会となるよう、事業手法を見直し、新たな集会事業へと発展させていきます。

「停滞／事業手法の見直し」となった事業では、2 事業が不登校対策事業となっています。不登校改善重点校に指定された学校では一定の成果が見られるものの、板橋区全体での対応となっておらず、不登校出現率も依然として高く、改善に向けて大きな課題が残っています。誰もが等しく教育を受けられる機会を確保するためにも、専門家等の助言を仰ぎながら、迅速な対応方法を検討していきます。

「概ね順調／目標値・指標の見直し」となった事業は、「いたばしボローニャ子ども絵本館の充実」です。「絵本のまち板橋」を推進していくためには、区民が身近に絵本に触れ、その楽しさや魅力を感じられる環境づくりが重要となります。来館者数やイベントへの来場者数などの事業指標でなく、図書館以外においても絵本を手に取り、絵本の楽しさや魅力を感じられる機会を提供する展示の工夫や区内外への資料の貸出等について、適切な事業指標の設定を検討していきます。

「達成／事業の廃止」となった4事業のうち、2事業は「フィードバック学習教材・補助教材」に関する事業です。これは、平成30年度の全国学力・学習状況調査において、板橋区の子どもたちが、長文を読解し、自分なりの意見や感想を書くという問題に対する無回答率が高く、「読み解く力」に課題があると判明したため、フィードバック学習教材・補助教材を活用した学習から、リーディングスキルテストを活用した「読み解く力」の育成へ切り替えることとしました。そのため、「事業の廃止」としています。また、「理科教育重点モデル校事業」及び「子どもの健康づくり事業」は、3年間の取組により目標を達成し、次年度以降モデル校等の指定を行わないため、「事業の廃止」としています。いずれの事業も、これまでの取組の成果を各学校に広め、活用していくことが重要となります。

「未達成／事業手法の見直し」となった2事業は、「行動体力の向上に向けた一校一取組活動の推進」と「地域人材育成の支援（生涯学習課）」です。これは、目標値を達成できなかったこと、予定していた事業が実施できなかったことにより、「未達成」となりました。課題解決に向け、対策を検討し、改善していきます。

#### ■各重点施策の評価評語内訳

		評価評語				
		順調	概ね順調	停滞	達成	未達成
施策番号	1	6	1	—	3	—
	2	4	3	—	—	—
	3	6	—	—	1	1
	4	8	—	2	—	—
	5	5	—	—	—	—
	6	8	—	—	—	—
	7	3	1	—	—	1
	8	5	—	1	—	—
	9	2	1	—	—	—
	共通	4	1	—	—	—
	特別	2	—	—	—	—
計		53	7	3	4	2

## 5 点検・評価 検討経過

平成31年	4月	25日	第9回教育委員会	点検・評価の進め方を決定
令和元年	6月	13日	第13回教育委員会	
				一次評価結果報告及び外部評価委員の決定、外部評価実施方法等の報告
令和元年	6月	25日	外部評価ヒアリング	
令和元年	6月	26日	外部評価ヒアリング	
令和元年	8月	22日	第18回教育委員会	外部評価結果の報告
令和元年	10月	15日	第23回教育委員会	二次評価の審議、決定
令和元年	11月	19日	庁議報告	
令和元年	12月	4日	議会報告（文教児童委員会）	
				区議会報告後、板橋区教育委員会ホームページ等により報告書を公開





## **IV 点検・評価結果**

各評価結果については、次ページ以降を参照してください。

また、各評価結果の重点施策ごとの該当ページは下表のとおりです。各評価結果をご覧になる際に、参考にしてください。

【各重点施策 評価結果 該当ページ一覧】

番号	重点施策名	二次評価	外部評価	一次評価【施策】	一次評価【事務事業】	前年度の二次評価への対応状況
1	確かな学力の定着・向上	29-30	42	48	54-55	72-73
2	豊かな人間性の育成	31-32	42	49	56-57	74-75
3	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進	33	43	49	58-59	76-77
4	誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備	34	43	50	60-61	78-79
5	保幼小中のつながりある教育の実現	35	44	50	62	80
6	安心・安全な教育の推進と学校環境の整備	36	44	51	63-64	81-82
7	地域による学び支援活動の促進	37	45	51	65	83-84
8	生涯学習社会へ向けた取組の充実	38	45	52	66-67	85-86
9	家庭における教育力向上への支援	39	46	52	68	87
共通	すべての方向性に共通する事業	40	46	53	69-70	88-89
特別	特別に評価すべき事業	41	47	—※	71	90

※特別に評価すべき事業については、一次評価は事務事業評価のみ実施、外部評価・二次評価は2事業をまとめて評価しています。

## 1 二次評価【教育委員会としての最終評価】結果

重点施策1 確かな学力の定着・向上			
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○板橋区授業スタンダードの徹底により、着実に児童・生徒の学力向上に成果をあげている。今後も、板橋区授業スタンダードに沿った授業展開の充実を図り、具体的な「めあて」提示の工夫、「振り返り」の教育的意義の周知や「振り返り」の時間の確保等、確実に実施されたい。</p> <p>○板橋区授業スタンダードについては、すべての学校に浸透できたと考えられるが、まだ学校間や教員間での指導力に差が見受けられる。実態に応じた学級経営や個別指導力の向上が求められるので、研修やロールモデル授業などを実施できる指導力のある教員の育成も継続されたい。</p> <p>○アセスメント（hyper-QU）についての効果検証がなされていない。事業を実施することで、学校にとってどのようなメリットがあるのか、具体的な効果や活用方法を把握し、全校にその良さを周知されたい。また、その実施について対象学年を拡大する必要性についても検討されたい。</p> <p>○フィードバック学習教材を活用した学習から、「読み解く力」の育成に切り替えていくにあたり、各学校での取組に差が出ないように、指導室や教育支援センターが中心となり、具体的な取組例を含めて事業展開を進められたい。</p> <p>○全国学力・学習状況調査における板橋区の子どもたちの課題は、長文を読解し、それに基づいた自分なりの意見や感想を表現（書く）する問題への無回答率の高さである。「読み解く力」の育成を重視する施策展開をするにあたっては、各学校に対し、こうした問題を授業の中に取り入れることで、子どもたちが考える習慣を身に付けたり、問題に慣れていくことの重要性を訴えるとともに、小・中学校で行われるテストの利活用や質的転換について、学校現場とも検討し、区としての方向性を示されたい。</p> <p>○教育科学館や大学との連携、大学生ボランティア等の地域人材の活用を通じて、IoT（※1）やデータサイエンス（※2）の手法を組み合わせた教育プログラムを推進し、ロボットやプログラミングの世界的競技会などに参加するなど、合理的なSTEAM教育（※3）を展開されたい。</p> <p>○教育科学館については、生涯学習課と指定管理者が連携し、プログラミング教室やファーストレゴリーグ（※4）の参加等、意義のある取組を行っており、板橋区の子どもたちの科学的関心を高めることに役立っている。今後も定期的に担当者が議論し、子どもたちが様々な学びに興味関心をもてる環境づくりを推進されたい。</p> <p>○学校図書館の充実では、貸出冊数増加に向け、児童・生徒にとって一番身近な学校図書館の活用が進むように、より一層の工夫や取組が必要だと考える。各校で行われている活動が共有できるように、例えば、学校図書館ニュースなどを作成して、各学校の効果的な取組事例を、図書館司書（委託事業者）や学校図書館ボランティアに周知する取組等を推進されたい。</p> <p>○授業外での教育効果を向上させるため、図書館サポーターの協力のもと、学校図書館と地域図書館との連携をさらに深めていく活動を工夫されたい。「読み聞かせ」だけでなく、「絵本づくり」や「図書館サポーターによる推薦図書」、「図書探しイベント」など、児童・生徒が楽しんで本に関われる取組を充実されたい。</p>			

○教育支援センターでの研修や研究体制は、教員のニーズに応じて展開され、質量ともに充実してきている。今後は、教員がICT機器等を活用して、学校や自宅において、質の高い授業の様子を閲覧するなどの研修が受講できる仕組みを開発できないか検討されたい。

○教科等指導専門官の力量が十分発揮できていないと感じる。その知名度をあげるとともに、若い教員の授業力向上のために、積極的に授業参観ができるような仕組みづくりを検討されたい。

(※1) IoT (アイオーティー) …「Internet of Things」の略。「モノのインターネット」と訳す。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され(単につながりだけでなく、モノがインターネットのようにつながる)、情報交換することにより、相互に制御する仕組みのこと。

(※2) データサイエンス…データ分析についての学問分野。統計学、数学、計算機科学などと関連し、主に大量のデータから何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出すこと、またはその処理の手法に関する研究を行うこと。

(※3) STEAM教育…「Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術)、Mathematic(数学)」のそれぞれの頭文字をとったもので、科学、数学、芸術等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育のこと。

(※4) ファーストレゴリーグ…9歳から16歳の青少年を対象とした世界最大規模の国際的なロボット競技大会で、日本は2004年から開催している。参加する子どもたちはチームを編成し、競技用ロボットの制作及びプログラミング、研究発表のための情報収集とプレゼンテーションを行う。

## 重点施策2 豊かな人間性の育成

評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○アントレプレナーシップ教育は小学校数校で実践されている。良い事例もみられるようになってきているが、現在中学校ではほとんどなされていない状況にある。「職業体験＝キャリア教育」という発想ではなく、小中一貫教育のカリキュラム・マネジメント（※1）の視点から、アントレプレナーシップ教育について見直されたい。また、対象職種なども限定されていると感じるので、板橋区コミュニティ・スクール（以下、「iCS」という）などで多様な職種の方々の協力を得て、職業に関連する学びへの興味関心の喚起につなげられたい。</p> <p>○いじめ防止対策については、各学校で「学校いじめ防止対策委員会」を設置していることや、年3回のアンケート実施、いじめに関わる授業の実施などの取組について、保護者や地域に向け広く発信するとともに、教職員のいじめに対する意識をさらに高めることが必要である。また、これまでに集約された様々な事例を各学校へフィードバックし、学級の安定化や安心できる学校をめざし、本質的な問題解決につなげられたい。</p> <p>○「板橋区環境教育推進プラン2025」におけるESD（※2）の推進は、今後の共生社会を築いていく子どもたちにとって大切な学びであり、推進校を中心に取組が充実してきている。エコポリスセンターとの連携も期待できる場所であるが、今後、IoTを活用した遠隔地との環境保全プロジェクトやマレーシアの学校とのネットコミュニケーションによるESD等に展開できれば、グローバル人材の育成につながるものとする。また、外国から来ている児童・生徒も含め、多様な思考を受け入れる姿勢が持続可能な社会づくりでは重要となるため、グループワークのみならず、中学生海外派遣事業で本区の中学生と交流したマレーシアの子どもたちと連携するなど、様々な実践例を積み重ねていくことを期待する。</p> <p>○昨年ユネスコスクール（※3）に加盟した2校で行われている教育実践については、積極的にPRを行い、加盟校を増やすことに努められたい。</p> <p>○教育とESDは、SDGs（※4）のゴール4とターゲット4.7に明示されているのと同時に、持続可能な社会の担い手づくりを通じて、SDGs17のゴールすべての達成に貢献するものと考えることができる。また、教育については、「教育はすべてのSDGsの基礎」であり、「すべてのSDGsが教育に期待」しているとも言われている。SDGsで掲げる「誰一人取り残さない」という理念を、教育委員会のすべての施策に結びつける発想をもち、事業に取り込まれることを期待する。</p> <p>○「絵本のまち板橋」の推進として、「絵本づくりワークショップ」や「ボローニャブックフェア」、「国際絵本翻訳大賞」など様々な取組が見られ、楽しみである。しかし、「絵本のまち板橋」という言葉が浸透していないと感じることも多い。ボローニャ子ども絵本館や区立図書館だけでなく、各学校図書館や区役所内はじめ区関連施設でも、「絵本のまち板橋」の表示や絵本月間などを行ったり、若者や大人向けの施策展開や、全国組織とつなげたりするなど、さらなる工夫により「絵本のまち板橋」の実現に向け、積極的にPRされたい。</p> <p>（※1）カリキュラム・マネジメント…子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと。特に、教科等横断的な視点からの教育活動の改善、教科等や学年を超えた組織運営の改善が求められる。</p>			

(※2) ESD…「Education of sustainable Development」の頭文字をとったもので、「持続可能な開発のための教育」と訳す。環境を含む様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと。それによって、持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動を指す。

(※3) ユネスコスクール…ユネスコの理念を実現するための実践を行う学校で、世界中の学校との交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすことを目的として活動を行う。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けている。

(※4) SDGs…「Sustainable Development Goals」の略。2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016年から2030年までを対象とした、持続可能な社会を実現するための目標（ゴール）のこと。17の目標（ゴール）と169のターゲットから構成されている。これにより、貧困や飢餓をなくし、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることをめざしている。

#### ゴール4

すべての人々に、包摂的で公平な、良質な教育を保障し、生涯にわたる教育機会を促進する。

#### ターゲット4.7

2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバルシチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

### 重点施策3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進

評価評語	川俣調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○来年の東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、障がい者理解やボランティア精神といった福祉教育の充実につなげることができると思う。例えば、パラリンピアンの子供から学んだことを自分の生き方に生かすという発想につなげたり、自分ならどうことができるか、そしてそれを実現するために必要な条件は何か、など現実的な問題の解決にあたらせる絶好の機会と捉え、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの推進を図られることを期待する。</p> <p>○昨年度区内3校から提案された「いたばしライフスタイル」について、区内小・中学校の研究発表成果が他校に広がりを見せていない。良い取組内容や指導方法等については、区の施策としてもっと活用されたい。</p> <p>○学校給食を通して、地産地消、安心・安全な食、アレルギー、文化、朝食と学力の関係についてなど、児童・生徒に教えていくことが大切であると思う。世界のトップアスリートだけでなく、児童・生徒自らが食の大切さを認識し、実感できる環境づくりを期待する。</p> <p>○夏の暑さが深刻になる中で、外部評価でも給食室の職場環境について、課題として取り上げられた。食中毒や食物アレルギー対策にもつながると感じられるので、給食室の環境整備改善については迅速に対応されたい。</p> <p>○板橋区版「英語村」は今年度も応募が多く、小学校の外国語活動・外国語科完全実施に向かい、来年度以降もその需要は増すばかりである。事業の継続については戦略をもって取り組まれない。また、英語事業の集大成として、中学生海外派遣事業や英語検定3級取得といった、板橋区の英語教育のロードマップの策定等を検討されたい。</p> <p>○板橋区版「英語村」は、参加者のアンケートで英語に対する好感度が非常に高く、リピート志向の高さからも、受講者にとって満足度の高い事業として大変評価できる。小学生の希望者が多いことや、中学生の学習成果を発表する機会の設定などの課題を解決し、さらに素晴らしい事業となるよう引き続き取り組まれない。地域の中で、小学生がオールイングリッシュで外国人講師と楽しく活動している様子を、学校の先生方にも周知し、授業の参考にしてもらいたい。また、海外の小・中学生と連携して、国際的な課題を議論できるような手段（遠隔授業やクラウド型コミュニケーションツールの活用等）も検討されたい。</p>			



## 重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備

評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○「中高生勉強会」や「i-youth (あい・ゆーす)」といった学ぶ機会や居場所の確保は、中高生にとって必要であり、貴重な交流の場であると考え。特に、不登校の子どもたちが自分の居場所として参加していることは意義深い取組である。また、「中高生勉強会」は周知徹底が進められたため、参加者数も増え、成果が得られる段階になってきている。今後は、参加者からのフィードバックを踏まえ、さらなる内容の充実に努められたい。</p> <p>○板橋アカデミーは、グループワークや著名な講師との協議が多く盛り込まれ、現場教員の指導力向上に有効な取組と感じられる。参加人数も増加傾向にあり、率先して参加している教員の熱意も感じられるため、今後も継続して実施されたい。</p> <p>○ICT支援員による板橋アドバイザーズ・ラボICT活用講座は参加者のニーズに合わせた運用を工夫しており、高く評価されている。更なる展開を期待したい。</p> <p>○特別支援教室が小学校全校で実施され、中学校でも巡回指導が始まっている。従来の通級指導から、自校で指導を受けられるという点で効果的である。しかし、特別な支援を要する児童・生徒数の増加に伴い、指導回数が不足しているといった状況もみられる。この点については、入級児童・生徒の数について適正な判断を行っていくとともに、iCS等を通じて、対応可能な人材の発掘やボランティアの活用等により工夫して対応されたい。また、特別支援教育やユニバーサルデザイン教育についての研修の充実を図られたい。加えて、東京都教育委員会に働きかけ、大学での教員養成課程における特別支援教育の重要性を訴える必要があると考える。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」という）の重要性については、学校現場だけでなく、様々なところから聞こえてきている。ただ、SSWが対応する児童・生徒数が増加しており、不登校児童・生徒に対応する人的資源が不足しているようにも見受けられる。現在の6名から、さらなる増員を期待するが、学校現場に配置している様々な職種の人材とのバランスを考え検討されたい。</p> <p>○不登校改善重点校などの不登校対策を行ってはいるが、依然として不登校出現率は高いままである。専門的な立場の方から助言をいただくなど、従来とは違う新たな取組が必要と考える。また、不登校対策については、学校復帰だけが本人の幸せとは限らないため、家庭・地域との連携、社会教育、福祉部局との連携により、当該児童・生徒に寄り添う仕組みの充実を期待する。</p> <p>○家庭教育支援チームについて、2チームのモデル（ユニット）実施が開始されたが、活動内容やチームが地域の中でどのような役割を担うのかということが共有されていないように感じられる。不登校児童・生徒やその保護者に対し、誰がどのように関わりあっていくのか、家庭教育支援チームのめざす姿を具体的に示し、関係者の理解啓発を進められたい。また、家庭教育支援チームは、民生・児童委員等との連携、協力が欠かせない事業である。関わる方々の意見を十分に反映させ、取り組まれたい。</p>			

## 重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現

評価評語	川貞調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○小中一貫教育を推進するにあたり、その目的について、教育委員会、学校、児童・生徒、保護者、地域の方々と共有し、理解を得ることが必要であるが、周知啓発がまだ十分ではない。小学校6年間と中学校3年間のカリキュラムや教育活動を義務教育9年間という視点から、意図的・計画的・継続的につなげるという発想で、見直せるものは見直し、加えるものは加え、省けるものは省くという姿勢で進められたい。また、板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成については、学校現場や保護者・地域の意見を取り入れた仕上がりとなるよう検討されたい。なお、小中一貫教育では、小中一貫校（義務教育学校）の施設整備の話題は避けられないのではないかと。小中一貫校の将来像を示していくことも必要であるとする。</p> <p>○小中一貫教育の推進として、中学校長を中心に、各学びのエリアでの取組が活発となり、連携が進んできている。児童の中学校体験、生徒による小学校での教育支援、エリアごとに小・中学校と一緒に研究を進めるなど、素晴らしい取組が増えている。教育委員会が中心となって、各学校への情報提供や、小中一貫教育ガイドライン等を作成し、保護者や地域への周知活動等に取り組まされたい。また、教員一人ひとりの意識改革をより一層進めていくとともに、希望すれば小学校から学びのエリアの中学校へ進学できるよう、通学区域の見直しなどの環境整備についても検討されたい。</p> <p>○保幼小接続については、アプローチカリキュラム（※1）やスタートカリキュラム（※2）の認知度を高める努力が必要である。また、私立幼稚園や私立保育園との連携も不可欠となるため、ICSなどを通じて、地域人材を活用しつつ、連携を強化されたい。</p> <p>○就学前の子どもたちへの読書活動については、「絵本のまち板橋」を推進していくためにも、絵本に関する様々な催しを実施し、読み聞かせや絵本づくりが、家庭や幼稚園、保育所等において、積極的に実践されていくよう周知・啓発を継続されたい。また、図書館における就学前の子どもやその保護者に向けた読書活動の推進は、小・中学校での読書支援にもつながっていくと考える。親子読み聞かせ講座などを通じて、家庭における読書活動や教育機会の拡大へとつなげられたい。</p> <p>○「小学校・中学校入学前に身に付けたい10の生活習慣チェックシート」については、今後も地道な取組を進められたい。なお、家庭教育講座等、その見直しを含めて、教材として活用することなども検討されたい。</p> <p>（※1）アプローチカリキュラム…幼児期における遊びや体験を通じた学びが、小学校の生活や学びにつながるよう工夫された5歳後半以降のカリキュラムのこと。</p> <p>（※2）スタートカリキュラム…幼児期に育まれた資質や能力を踏まえ、学校生活に円滑に適応していけるよう工夫された小学校入学当初のカリキュラムのこと。</p>			

## 重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○スマートフォン・携帯電話の使い方については、そのメリットを強くアピールすることが大切である。また、児童・生徒の学びのツールとして活用することを意識づけることも重要であると考えられる。具体的な使用方法をまとめた資料や、教科書に記載されたQRコードの利用方法など発信されたい。それとともに、デメリットの部分も具体的に示し、トラブルや犯罪に巻き込まれないよう、学校でも家庭でも、同じように子どもたちに伝えることが重要である。</p> <p>○自転車の交通事故については、被害者になるだけでなく、加害者にもなり得ることを指導するとともに、通学路における安心・安全という点で、疑問や不安を感じたことはすぐに保護者や先生に伝える習慣を身に付けさせることが大切である。その意味からも、土曜授業プランにあわせ、保護者とともに地域安全マップづくり等の実施を検討されたい。また、今後も、地域防犯、地域防災とともに、地域住民との連携や情報共有などを継続されたい。</p> <p>○魅力ある学校づくりプラン第2期・第3期の計画については、今後の人口推計と照らした困難な課題であろうが、小規模校あるいは大規模化が予想される学校については、学区域の変更等、適正規模・適正配置で定められた範囲内を維持できるような運用を期待する。また、学校づくりに際しては、小中一貫校（義務教育学校）を視野に入れた検討をされたい。</p> <p>○長寿命化改修については、現存維持を条件にした工事ではあるが、地域にとっては重大な関心事であり、学校や地域、iCS等への説明は丁寧に取り組みされたい。なお、体育館の空調設備設置については、中学校へ5台設置した効果を多角的に測定・モニタリングし、教育委員会としての中長期的な設置の方向性を明らかにすべきと考える。</p> <p>○今の子どもたちが活躍する2030年以降の社会を見据えた時、AI（※1）を活用する力とAIでは代替できない力を、授業を通して育成するためには、ICT環境の充実が重要である。ハード・ソフトともに、教育委員会として整備を進めていく必要がある。また、ICT機器を活用した授業をしていきたい、そのスキルを使っていきたいという教員が板橋区に集まってくれることをめざし、それが板橋区の教育の魅力として広く周知されることを期待する。</p> <p>○学校現場からタブレット端末の増設や無線LANの拡充などを希望する声が多く出されている。授業の中で効果的に利用している例も多くなっており、児童・生徒、教員の要望に応えられるような環境整備を進められたい。また、来年度からは小学校で外国語の授業が開始され、教員の負担が増える中で、デジタル教科書の整備等により、教員の支援を充実されたい。全校で、すべての教員が電子黒板等を活用している姿を見せることがとても重要であるため、研修やICT支援員によるサポートを今後も継続されたい。</p> <p>（※1）AI…「Artificial Intelligence」の略。人工知能と訳す。人間の知的ふるまいの一部について、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。経験から学び、新たな入力に順応することで、人間が行うように柔軟に作業をこなす。</p>			

## 重点施策7 地域による学び支援活動の促進

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○学校支援地域本部事業は全校実施となったこともあり、学校支援ボランティアも計画数以上となって活発化している。次は良い取組を情報共有した上で、iCSの活用も含めて成果拡大につなげることである。多くの学校支援ボランティアがやりがいを感じることができる取組へと実質化されたい。</p> <p>○令和2年度のiCSの全校導入に向けて、着々と準備が進められていることを高く評価する。地域教育力推進課は、各学校により様々な形で進んでいる状況を把握するとともに、学校支援地域本部シンポジウム等で、活動内容や運営方法など共有し、学び合える機会を提供したり、iCSの会議の様子や熟議の内容について、iCSだよりとして保護者や地域に報告・発信したりするなど、今後も広く周知していくことに努められたい。</p> <p>コミュニティ・スクール委員会設置のポイントは「人選」であると考え。学校長が学校の応援団になるにふさわしい、チームワーク（親和性）とネットワーク（関係性・つながり）とフットワーク（機動性）のスリー・ワークスが備わっている方をいかに保護者、地域（企業等も含めて）から選ぶかにかかっている。学校長は、PTA会長や役員、町会や自治会の方々に相談し、人材発掘に努められたい。また、地域教育力推進課はそのための支援に注力されたい。</p> <p>○iCSは、これからの板橋の教育の核となる事業であると感じている。地域、学校、保護者を持続可能な形でつなげていくため、広く周知するとともに、人材を確保し、育成していくことが重要である。これまで積み上げてきた学校支援地域本部での活動が、今後のiCSの核となり、事業の進め方や地域との連携方法など参考になると考える。また、地域における人材確保は近々の課題ではあるが、今ある人材の協力を得ることができれば大きな力になると考える。支援環境の整備やコーディネートの方法、効果的な事例など、情報の共有化等については、地域教育力推進課のサポートが不可欠であり、今後も尽力されたい。</p> <p>○教育支援センターによる学習支援人材コーディネートについては、学生支援ボランティアの人数が減少傾向にある。大学側も文部科学省の指導による教育カリキュラムの厳格化などが背景にあり、小・中学校側の希望に沿った運用が難しい状況となっているが、引き続き、大学や企業との連携を拡大し、人材確保に努められたい。</p> <p>○あいキッズ事業は、板橋区が全国に誇るべき放課後児童対策事業である。地域教育力推進課は、常に子どもたちにとってより良い活動を提起し、委託法人と協働していくとともに、学校との連携や安全な運営を継続されたい。保護者の中には、あいキッズが学校の一部と認識している場合もあり、緊急連絡等では教育委員会及び学校との密な連携を期待する。さらには、「学びへの興味関心を高めるプログラム」の充実にも創意工夫し、質の向上に取り組まれたい。</p> <p>○あいキッズ利用者満足度調査アンケートを実施しているが、回収率が低い。この調査で事業評価をしていくのであれば、アンケートの実施方法や回収方法を再考し、利用者の声が届くように改善していく必要があると考える。</p>			

## 重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○生涯学習センターは、「i-youth」開設により若者の利用が拡大し、若者自らが企画・運営に携わったり、不登校生徒の居場所や交流の場となったことは大変評価できる。また、ダンスフェスタとして過去2年間見事な企画・運営を行ってきた。ダンスを冠にした、板橋区の特徴を出せる取組となるよう、さらなる発展を期待する。また、2か所の拠点が軌道に乗ってきたら、拠点を増やすことも検討されたい。なお、多世代交流のきっかけとして、サークルフェスティバルや各団体の発表会へ招待しあうなど、小さな交流ができる環境を整えることも検討されたい。</p> <p>○教育科学館は施設の改修工事も完了し、改めて区民に注目してもらえる魅力的な運用を求められている。年間を通じて区民のニーズに応えられるような運用プログラムの充実を期待する。理系や学芸員課程の大学生ボランティアなどの人的支援を推し進める必要がある。</p> <p>○少年自然の家八ヶ岳荘は、改修工事が終了し、多岐に渡る活用拡大が期待されているが、運用面において、改善の必要性も指摘されている。合理的運用や年間イベントの企画立案を検討し、より一層魅力ある施設となるよう努められたい。</p> <p>○新中央図書館について、ボローニャ絵本館をメインにした1階の子ども向けフロアは、「絵本のまち板橋」を象徴する空間となるよう、ハード・ソフト（特に人材面での配置）両面の充実を図るとともに、区民への広報活動を積極的に行い、区民の関心を高めるよう努められたい。また、教育科学館と連携した知の拠点形成を意識し、図書館サポーターなどを活用した、板橋区ならではの生涯教育プログラムなども検討されたい。なお、櫻井徳太郎氏のスペースについては、同氏の存在や民俗学、板橋の歴史に興味を持つ区民が増えるような、展示方法やその周知を図ること等を検討されたい。</p> <p>○図書館サポーター制度については、順調に進捗し、ボランティアのスキルアップが進んだことは評価できる。今後は、地域図書館以外にも、学校図書館やあいキッズ、高齢者施設、幼・保育園など活躍の場の拡大等を検討されたい。また、「板橋区子ども読書活動計画2020」に基づき実施している、「読書通帳」、「読書感想文コンクール」、「調べる学習コンクール」は大変良い取組であり、浸透してきていると感じられるので、事業の展開拡大に努められたい。</p> <p>○史跡公園については、3つのセクションが合同して取り組んでおり、全体の調和感が重要である。生涯学習課がその先頭に立ち、東京都内では見られない魅力ある施設を整備されたい。また、「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち板橋」の象徴として、緑に力を入れた憩いの空間となるよう工夫されたい。文化財の保存と活用のバランスをうまくとりつつ、民間の知恵を生かしながら、「もう一度来たい」と思える公園づくりに努められたい。なお、交通の利便性が良くないことを逆手に取り、駅周辺からの「面」としての史跡公園づくりを期待する。</p> <p>○地域の歴史・文化財の保護と教育への活用では、古い時代のものから野口研究所のような近代化遺産に至るまでをまとめた案内資料が活用され始めた。板橋区の魅力発信として、案内資料を活用しながら、各学校への周知や区長部局との連携を検討しアピールされたい。</p>			

## 重点施策9 家庭における教育力向上への支援

評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○「家庭教育支援チーム」については、2チーム（ユニット）でのモデル実施が開始できたことは評価できる。しかし、民生・児童委員と学校、家庭がどのように連携・協議できるかについては、まだ課題がある。不登校児童・生徒及びその保護者に寄り添った対応をするためにも、学校、教育委員会、民生・児童委員が三位一体となり、不登校対策に取り組まれない。</p> <p>○「入学前に身に付けたい10の生活習慣チェックシート」は効果測定などによってその内容も深化し、利用率も向上している。3・4歳向けのものへと広がりもみせている価値ある取組であり、学校側での効果的な活用事例もみられるようになってきている。さらにわかりやすく、利用しやすいチェックシートとなるよう工夫を重ねながら継続されたい。</p> <p>○年齢別講座について、参加者の減少による事業のあり方を検討していく上では、区の他部署で開催されている同様の講座等と比較・検討を行い、利用者のニーズにあった内容となるよう精査することが必要である。</p>			

すべての方向性に共通する事業			
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○教育委員会のホームページで学校訪問の様子が随時見られるようになったが、学校や教育委員会のホームページをあまり見ることがないという声も聞かれ、保護者や地域にその情報が届いていない。また、更新されず古い情報のままのものやアクセスがわかりにくいものもある。利用者にとって、興味をもって、わかりやすいホームページとなるよう改善されたい。内容的にもいろいろなものが入りすぎていて、保護者や区民のニーズと合致していないことも考えらえる。子どもや保護者、区民が何を知りたいかを把握するよう努め、改善を図られたい。</p> <p>○広報活動については、印刷物からインターネットを媒体にした広報が一般的になってきている。しかし、ホームページは、更新が頻繁に行われないと、一度見て終わってしまうことがほとんどであるため、情報更新を頻繁に行えるSNS（※1）に移行しつつある。</p> <p>「教育の板橋」や「いたばし教育チャンネル」は、構成や内容が改善され、読みやすくなったが、表現や語彙にまだまだわかりにくさがある。保護者や区民に対するわかりやすさを強く意識されたい。また、教育委員会や各学校の活動の活性化に対応するためにも、「教育の板橋」や「いたばし教育チャンネル」の発行を継続するとともに、これらをリアルタイムに周知できるSNSの利用を検討し、保護者や若い世代への発信を強化されたい。</p> <p>○年3回の身近な教育委員会は、多くの方々の参加を得られ、教育委員や教育委員会事務局幹部と参加者が熟議などを行うことで、教育施策等についての理解を深めることができている。事務局の手間は増えるが、もっと頻繁に実施すること等を検討されたい。</p> <p>○点検・評価については、教育委員会がどういう施策を、どのように進め、どのような進捗状況にあるかを伝える手段として、貴重なものである。その結果については、学校現場や小中学校PTA連合会等に対し、周知することも大切である。また、学識経験者や保護者代表で構成される外部評価委員の評価は大変重要であり、客観的な視点でのコメントは区民からの信頼向上にもつながるものとする。本質的な自己点検・評価を心掛け、着実に進歩できるよう評価結果を活用されたい。</p> <p>○経営支援部の推進では、副校長の業務軽減や、教員の指導力強化とサポート力の強化、チームで問題を解決する能力の向上にも期待する。そのためにも、教育総務課が中心となって、教育委員会事務局間の連携や区長部局等他部署との連携に尽力されたい。また、経営支援部によるスクールマネジメントの検討と効率化の優良事例は、校務改善の着実な推進につながるものと期待できる。</p> <p>事務職員の業務エリアの見直しが積極的に進められている。引き続き、現在教員が行っている事務的作業を誰が担うことができるのか、改めて見直しを行い、事務職員の知恵を大いに活用するとともに、各学校の事務職員がやりがいをもって働くことのできる職場環境構築に向け、鋭意検討されたい。</p> <p>（※1）SNS…「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて人と人のつながりを促進し、コミュニティーの形成を支援する会員制サービスのこと。</p>			

特別に評価すべき事業 服務規律の確保（体罰・個人情報保護） 教職員の働き方改革			
評価評語	川頃調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○体罰による服務事故や個人情報の流出・紛失事故については、服務事故防止研修や体罰防止研修等により減少傾向にあるが、根絶には至っていない。今後も、教育委員会訪問での指導や、研修を継続されたい。</p> <p>○個人情報の取扱いに関して、各教職員の認識に差があると感じている。引き続き、複数人でのチェック体制の確立等を推進するとともに、研修等における指導の徹底を図られたい。</p> <p>○未だに中学校の部活動において、教員等の不適切な言動がみられる。部活動の目的について、改めて理解を深める必要がある。結果重視から過程重視、教師主導から生徒主体といった発想の転換や部活動指針の随時見直しなど、児童・生徒や教員だけでなく、保護者や地域に対しても理解・啓発を推進されたい。</p> <p>○教職員の働き方改革については、保護者や地域など、学校を取り巻く方々の理解と協力が不可欠である。iCSを活用し、学校情報を発信するとともに、学校課題も提起し、iCS委員やPTA役員等と一緒に、解決策を考え、実践し、地域とともにある学校づくりを実現していく必要がある。iCSでは、教職員支援の考え方を常に念頭において活動を進めていくと、より良い組織形成につながるものとする。また、教職員の働き方改革については、学校だけに改革を求めるのではなく、教育委員会が先導に立ち、学校業務の切り分けや予算、人員配置等を進めていく必要がある。</p> <p>教職員が安心して、授業に集中し働くことができる労働環境の整備が、教員志望者の増加や質の向上につながり、ひいては板橋区の教育環境の確保につながっていく。保護者や地域の理解と協力を求めつつ、最重要課題として取り組まされたい。</p>			



## 2 外部評価【学識経験者等による評価】結果

重点施策1 確かな学力の定着・向上			
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○「板橋区授業スタンダード」の徹底や「フィードバック学習教材」の活用などにより、全国学力・学習状況調査における結果の向上等、学力水準の向上という成果が現れていることは高く評価できる。フィードバック学習方式から読み解く力の育成へのシフトが順調に進められることを期待している。</p> <p>○従来の教え込む授業ではなく、児童・生徒に考えさせ、発言させることに重きを置いた授業となっており、これからの社会を生きる子どもたちにとって大変重要なことと感じる。今後も子どもたちの学力向上のために継続されたい。</p> <p>○「板橋区授業スタンダード」の発信力が上がってきており、授業が変わってきたことは実感できる。ただ、教員により授業の質に差がみられることもあるので、区内の小・中学校全体が同じ進捗状況となるよう、引き続き取り組まれない。</p> <p>○教育科学館での取組は、パソコン教室の参加者が増えていたり、ファーストレゴリーグに出場したりと充実したものとなっている。小学生からプログラミング教育が必要であるといわれている中で、早くから受け皿を作っていたことは評価できる。</p>			

重点施策2 豊かな人間性の育成			
評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○アントレプレナーシップ教育に関しては、良い実践を行っている学校があり、今後、板橋区の教育の目玉となるものと期待できる。児童・生徒の自己肯定感を向上させるキャリア教育として、さらに充実した取組となるよう期待している。</p> <p>○板橋区立学校学級安定化対策事業（アセスメント）に関しては、学校からの対象学年の拡大などの要望に応えることができると、より望ましい効果が期待できると考えられるので、予算措置等を踏まえ検討されたい。</p> <p>○子どもや保護者、学校で、いじめに対する認識にずれがあるように感じている。各学校において、児童・生徒だけでなく、保護者に対してもいじめに関するアンケートを実施するなど、保護者への啓発を進められたい。</p> <p>○いたばしボローニャ子ども絵本館は、良い取組を行っているが、今ひとつPRされていない印象を受ける。絵本の研究拠点としての利用価値もあるので、PR活動を工夫し、魅力をアピールされたい。また、翻訳アプリを入れたタブレットの貸出等により利便性が向上すると、利用者の増加につながると期待できるので検討されたい。</p>			

重点施策3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進			
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○来年は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるが、板橋区内では今一つ盛り上がっていないと感じている。貴重な機会であるので、児童・生徒に対し、スポーツの視点だけでなく、福祉教育の視点などを取り入れ、様々な経験をさせていただきたい。また、学校単位での様々な取組について、コンクールを開催して表彰する等の事業を展開し、盛り上げてほしい。</p> <p>○学校給食については、給食室のドライ化やエアコン設置等による職場環境の整備等も含め、今後も食中毒や食物アレルギー対策等の食の安全確保に取り組まれない。</p> <p>○「全国学力・学習状況調査」において、「朝食を毎日食べている」児童・生徒ほど学力が高いという結果が出ているので、学校と家庭が連携し、「朝食を毎日食べている」割合を向上させるための支援を行っていただきたい。</p> <p>○「英語村」のような学習機会の提供は大学においても行われているが、小中学生を対象としていることに大きな意義があると感じている。さらなる発展を期待している。</p>			

重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備			
評価評語	概ね順調	改善の方向性	目標値・指標の見直し
<p>○不登校児童・生徒は学校にいるスクールカウンセラーとつながることが難しい状況があり、スクールソーシャルワーカーは抱える件数が増えオーバーワークとなっている。そのため、不登校児童・生徒が増えている中で、充実した対策ができていないと感じる。一人でも多く復帰できるように事業の見直しを行っていただきたい。また、スクールソーシャルワーカーについては、予算措置も含めて、人的充実や質的向上に取り組まれない。</p> <p>○不登校児童・生徒の出現率を事業指標として評価するのであれば、集計方法等を見直し、「未確定」という標記ではなく、実績報告書に数値を明記すべきである。不登校はどの学校、どの学級にも起こりうることであり、仮に出現率が高い数値であったとしても公表し、学校・家庭・地域で課題を共有し、連携・協働して課題解決に取り組んでいただきたい。</p> <p>○中高生勉強会は順調に参加者数を増やし、充実した取組となっている。参加して欲しい生徒に情報が行き届くよう、引き続き周知に努められたい。</p> <p>○学校生活支援シートの活用は、特別支援教育を充実していくために、作成すること自体が重要なことであるが、保護者の理解や協力が得られていないと感じている。事業の意義について、保護者への周知・啓発を積極的に進めていただきたい。</p> <p>○特別支援教室が平成 30 年度からは小学校で全校実施され、中学校でも巡回指導が始まるなど、特別支援教育の体制が変わってきている中でも、順調に取組が進められている。今後も内容の充実を図りながら継続されたい。</p>			

## 重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○「教育の板橋」を実現する核として保幼小中の連携を位置付け、引き続き堅実に事業が行われることを期待する。ただ、保育園や幼稚園、特に私立の場合は連携がとりづらい印象を受けるので、効果的な連携方法など検討していただきたい。</p> <p>○小中の接続に関しては、分断の時代から連携へと展開し、小中一貫教育指導資料を活用した小中一貫教育の推進を図っている。段階的に事業を進めてきたことにより、今後、改築等に合わせた小中一貫校整備の可能性を含めて検討する際にも効果が期待できるのではないかと考える。</p> <p>○「学びのエリア」を生かした小中一貫教育については、小学校から中学校へスムーズに進学できる工夫がされており、保護者にとっても安心して任せることができる。PTAも含めて「学びのエリア」ごとに集まる機会があると、人材確保の面でも期待できると思われる。</p> <p>○「学びのエリア」については、町会や青少年健全育成地区委員会等への周知を徹底し、地域の理解を深めていただきたい。</p> <p>○就学前の子どもたちへの読書活動の推進について、保幼小中のつながりある教育という視点で考えた時の具体的な取組について検討されたい。</p>			

## 重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○児童・生徒のスマートフォン等情報端末の使用については、ハード・ソフト両面で刻々と変化するため、対応が難しいところではあるが、教育委員会として情報収集をしていく必要がある。また、今後も、家庭・地域に周知・啓発を図り、学校・家庭・地域で情報を共有・連携して課題に取り組んでいただきたい。また、使用ルールだけではなく、SNS等の安全な使い方についても周知・啓発を図られたい。</p> <p>○今後、教科書に記載されたQRコードを利用するなど、スマートフォンを活用した学習方法が取り入れられるようになった場合に、保護者の経済状況によってスマートフォンを持ってない子どもへの対応等について検討する必要がある。</p> <p>○ICT機器の整備や教員へのサポートの充実により、ICT機器活用アンケート調査において、教員が「児童・生徒の理解の深まり、興味・関心・意欲の向上に効果的である」という回答につながっていることは高く評価されるべきである。</p> <p>○安心・安全な教育の一貫として、板橋区立小学校PTA連合会でも開催している「地域安全マップ講習会」等の出張講座を各学校で実施することを検討してはどうか。地域の方々にも参加していただくことで、学校・家庭・地域で協力して対応できると思われる。</p> <p>○学校の改築、改修、施設整備等では、不測の事態により遅れを生じたこともあったようだが、現在は順調に行われている。今後も進捗状況を把握し、計画的に事業を進めていただきたい。</p>			

## 重点施策7 地域による学び支援活動の促進

評価評語	川頃調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○学校支援地域本部事業は、各学校や地域によって温度差があるのはむしろ自然のこととは思いますが、これに対して丁寧に対応している様子が伺えた。なお、コミュニティ・スクールの定着については、地域と学校がお互いに顔の見える関係で相互理解し、連携・協働していくためには、ある程度時間がかかるものであり、学校や地域の実態に合わせてじっくりと進めていただきたい。</p> <p>○学校支援地域本部やコミュニティ・スクール等に関わる地域人材が重複しており、活動に疲弊している現状がある。より多くの方が活動に関わることができるような仕組みづくりが必要である。</p> <p>○町会等の地域の方々は、コミュニティ・スクールについてあまり理解が進んでいないと感じている。学校・地域・保護者で子どもたちを見守る事業として、地域の方々へさらに丁寧な説明を行っていく必要がある。</p> <p>○ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ではボランティアが多数従事し活躍する。そうした方々が、大会後に、学校支援地域本部の学校支援ボランティアやコーディネーターとして学校支援に関わっていただけるような取組や仕組みづくりを充実させていただきたい。</p>			

## 重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実

評価評語	川頃調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○図書館は社会教育の拠点として非常に大事な施設であるので、拠点としての機能を高め、「知の拠点」としての中央図書館の新しい姿に期待している。</p> <p>○i-youthは、利用している若者たち自らが企画・運営等に携わるという方向性で取り組まれており、居場所づくりや交流の場として素晴らしいと感じている。ただ、拠点が2か所であるため、利用者増への対応が難しくなってくるのではないかと。今後、利用者増への対応について、新たな拠点を増やすことも踏まえて検討されたい。</p> <p>○青少年健全育成地区委員会活動事業で八ヶ岳荘を利用しているが、八ヶ岳荘のリニューアルに伴いキャンプファイヤー場の面積が小さくなり使い勝手が悪くなったとの報告を受けている。利用者の目線を大切に施設整備を心掛けていただきたい。</p> <p>○文化財や史跡等については、学校へのリーフレット配付や、「いたばしウォークラリー大会」「いたばしウォーキング大会」に取り入れるなど、区長部局との連携により区民に対して魅力をアピールされたい。</p> <p>○図書館サポーターについても、学校支援ボランティア等と同様、ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍されたボランティアの方々が、地域のために何かしたいとなった時に受け入れる仕組みづくりを検討されたい。</p>			

## 重点施策9 家庭における教育力向上への支援

評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○「家庭教育支援チーム」は、主任児童委員等と学校と家庭が連携を密にし、家庭を孤立させず寄り添うことで、不登校に対して迅速な対応がとれるのではないかと。保護者に対し、周囲の助けがどこで得られるのか、チームがどう対応してくれるのかなど、広く発信していくことも必要である。</p> <p>○年齢別講座は、講座を受講するだけでなく参加者自らがイベントの企画・運営を行うことへとつながっており、地域と共に学び合う教育力向上への効果が期待される面白い取組である。参加者を増やすためにも広報を工夫されたい。</p> <p>○「小学校・中学校入学前に身に付けたい生活習慣チェックシート」は、利用率等も向上しており順調に進められているが、内容については、子どもたちを取り巻く環境等の変化を見極め、適宜見直しを図り、充実したものとなるよう努められたい。</p>			

## すべての方向性に共通する事業

評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○学校や教育委員会のホームページをあまり見ることがない。ホームページは利用者に見てもらうための工夫が必要である。子どもや保護者の興味を引くことができるような内容の充実を期待する。</p> <p>○「教育の板橋」や「いたばし教育チャンネル」は広報の大事な役割を担っていると感じているので取組を継続されたい。</p> <p>○経営支援部を設置したことにより、副校長に集中しがちな業務を他の教員や事務職員へ割り振ることができ、負担軽減が図られつつある。引き続き経営支援部の推進に取り組まれたい。</p>			

特別に評価すべき事業 服務規律の確保（体罰・個人情報保護） 教職員の働き方改革			
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○体罰については研修等の取組により成果が出ているが、言葉の暴力等になってきていないかが心配なところもある。また、個人情報については服務事故が発生しているため、今後も継続して服務事故防止に取り組んでいただきたい。</p> <p>○教職員の働き方改革については、喫緊かつ最重要課題と捉え、今後さらなる予算を確保して取り組むべき案件だと認識している。策定された「教職員の働き方改革プラン 2021」を着実に実行することを期待している。</p> <p>○教職員の働き方改革は効率化の観点だけでなく、教職員の疲労やストレスを軽減し、ひいては授業の質の向上へとつながるものと期待され、大事な取組である。教育委員会においても、簡素化できる業務については簡素化するなど、教員の負担軽減に努めていただきたい。PTA連合会や保護者、地域に対しても丁寧な説明や研修を行い、理解を深めていただきながら、教職員・保護者・地域の三位一体で進めていくことが重要である。</p> <p>○板橋区だけでなく東京都全体で考える課題ではあるが、教員志望者が減っていることに危機感を感じて取り組む必要がある。今後、教職員が安心して働ける労働環境を整備した自治体が志望者を増やすと思われるので、引き続き教職員の働き方改革に取り組んでいただきたい。</p>			

### 3 一次評価【所管部長による施策評価】結果

重点施策1 確かな学力の定着・向上		
成果の分析	評価評語	順調
すべての教員が「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業の改善に取り組むことで、子どもたちの学力の定着・向上が図られ、「全国学力・学習状況調査」において全国平均と同等の結果を得られた。教育科学館におけるロボットプログラミング講座では、受講者や指導員のレベルが向上し、ファーストレゴリーグへの出場という目標を達成できた。授業力向上に特化した「授業革新研修」等の充実を図り、実践的な研修を行うことにより、教員の指導力向上を図ることができた。		
手段の分析	評価評語	妥当
「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業革新、「フィードバック学習教材・補助教材」の活用、司書配置や図書館ボランティアによる読書活動の充実等により、児童・生徒の確かな学力の定着・向上が図られている。		
環境変化の分析	評価評語	対応済
「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業革新、「フィードバック学習教材・補助教材」の活用等により、児童・生徒の学力向上が図られてはいるが、「全国学力・学習状況調査」での無回答率の高さ等の課題に対応するため、リーディングスキルテストを活用し、「読み解く力」の育成に切り替えていく。		
今後の展開方針	<p>「全国学力・学習状況調査」における無回答率の高さや70字から120字程度の文章を書くことへの課題に対し、「読み解く力」の不足が要因の一つと考えられるため、学校と教育委員会が協働して実践と研究に取り組み、「読み解く力」を育成していく。</p> <p>小学校の新学習指導要領では「プログラミング的思考」を育むこととされており、一定の水準のプログラミング教育を行うため、指導計画の策定を進めていく。また、教育科学館でのロボットプログラミング教室を継続し、ファーストレゴリーグへの参加も含め、「プログラミング的思考」の育成に注力していく。</p>	

重点施策2 豊かな人間性の育成		
成果の分析	評価評語	順調
<p>キャリア教育副読本の見直しを行い、アントレプレナーシップ教育の視点を加えた単元を記載し、各学校へ配布・活用することにより、アントレプレナーシップ教育の充実を図ることができた。小学校2校がユネスコスクールに加盟し、E S D（持続可能な開発のための教育）の推進拠点として区立学校へE S Dを推進するとともに、「子ども環境大使」としてエコポリスセンターで1年間の取組内容を発表する等、環境教育の推進に寄与した。「絵本づくりワークショップ」を小学校6校で実施し、絵本作りを通じて豊かな想像力や表現力を育み、子どもたちの読書活動の推進につなげることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>各学校園で環境教育に取り組むことで、子どもたちの環境に対する意識啓発がなされ、共生や思いやりの心を育むことができています。また、各学校において、いじめに関する授業やいじめアンケート等を継続的に実施していくことで、児童・生徒及び教職員や保護者等のいじめに対する意識を高め、いじめの未然防止や早期発見、早期対応へつなげることができています。</p>		
環境変化の分析	評価評語	対応済
<p>新学習指導要領の全面实施に合わせ、キャリア教育副読本「わたしたちの進路」の内容を検討し、アントレプレナーシップ教育の視点を加えた単元を記載し、タイトルも「自分づくりの旅へ」と変更し、各学校へ配布した。</p>		
今後の展開方針	<p>ユネスコスクールに認定された加盟校及び申請校を拠点として、E S Dの考え方を取り入れた環境教育に取り組み、子どもたちの環境についての感受性、環境に対する見方・考え方、環境に働きかける実践力を育成していく。</p>	

重点施策3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進		
成果の分析	評価評語	順調
<p>オリンピック・パラリンピック教育重点校での取組を各学校へ周知することにより、各学校のオリンピック・パラリンピック教育の活動が充実したものとなった。子どもの健康づくり事業は指定校3校での研究を基に「いたばしライフスタイル」を確立し、リーフレット等を作成・配布し、児童・生徒や保護者等に健康づくりへの意識を高めることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	概ね妥当
<p>板橋区オリンピック・パラリンピック教育プラン「いたばし5つの取組」を通して、スポーツや国際交流、障がい者理解等を継続的に学ぶことにより、国際社会に貢献できる子どもの育成が図られている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	対応済
<p>「英語村」は、小学生コースの応募者が定員を大幅に上回ったことから、定員を調整して事業を実施した。それでもなお、小学生コースのニーズに対応しきれなかったことから、実施回数の見直しや、コースの適正化について検討を行い、次年度の事業内容を調整した。</p>		
今後の展開方針	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、「板橋オリンピック・パラリンピック教育プラン」に基づき、各学校園にて取組を継続し、大会後も子どもたち一人ひとりの人生の糧となるよう、スポーツや国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等の体験学習を中心とした学習をレガシーとして残していく。</p>	



重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備		
成果の分析	評価評語	順調
<p>中高生勉強会は、中高生が気軽に参加できる学習支援事業だけではなく、参加者と学習支援者が良好な関係を築いていく中で、交流の場としても定着しつつあり、様々な事情を抱えた子どもたちも含め、安心して過ごすことのできる居場所となっている。特別支援教室は、拠点校が増え、新たなエリアでの巡回指導を開始し、発達や情緒面で課題を抱える児童の支援を充実させることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>中高生勉強会の実施や、スクールソーシャルワーカーの活用、特別支援教育の充実等により、学習支援や家庭支援、学校や家庭以外の居場所の提供など、様々な事情を抱えた子どもたちも含め、誰もが希望する質の高い教育を受けるための環境整備が進められている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	検討中
<p>不登校改善重点校では、「家庭と子どもの支援員」等を活用し、学校と家庭とで児童・生徒の情報を共有するとともに、実態に即した対応ができたことにより、改善傾向がみられたが、依然として板橋区の全体の不登校出現率は高い水準となっているため、重点校指定の視点を見直したり、専門家からの助言を仰ぎながら板橋区全体の対応指針等を検討していく。</p>		
今後の展開方針	<p>発達や情緒面で特別な支援を要する子どもたちの増加に対応するため、全中学校への特別支援教室の導入や特別支援教育に携わる教員の指導力向上に努めるなど、特別支援教育の充実を図っていく。板橋区における不登校出現率は依然高い数値となっているため、不登校改善重点校事業を継続し、不登校の要因や背景の把握に努め、各学校の不登校対策を推進していく。また、学校復帰だけでなく、板橋フレンドセンターや「i-youth」、中高生勉強会等の子どもたちの居場所づくりを進め、誰もが質の高い教育を受けられる環境整備に努めていく。</p>	

重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現		
成果の分析	評価評語	順調
<p>小中一貫教育を推進していくためのプロジェクトチームを設置し、推進体制の確立や役割分担の明確化を行い、「いたばし学び支援プラン2021」へ小中一貫教育の充実について盛り込むことができた。また、小中一貫教育の推進をわかりやすく説明したリーフレットを作成し、地域や保護者等への周知活動を行った。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>平成28・29年度で作成した「小中一貫教育指導資料」の活用や「学びのエリア」で小・中学校が取り組んだ事例の共有等を通じて、9年間の系統的な指導についての推進が図られている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	対応済
<p>いわゆる「小1プロブレム」や「中1ギャップ」への対応や、異年齢交流による社会性の向上等、小学校や中学校、幼稚園、保育所がそれぞれで取り組むだけでは解決できない課題に対応していくため、小中一貫教育推進プロジェクトチームでの検討を踏まえ、「いたばし学び支援プラン2021」へ3つの柱の一つとして盛り込むことにより、令和2年度の全小中学校でのスタートに向けた体制を整えている。</p>		
今後の展開方針	<p>「学びのエリア」において進めてきた小中連携教育を充実・発展させ、「学びのエリア」ごとの特性を踏まえ、義務教育9年間を通して系統性、連続性に配慮した教育を行う小中一貫教育を推進していく。</p>	

重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備		
成果の分析	評価評語	順調
<p>学校・保護者・地域が連携して子どもの健全育成を考えるセーフティ教室を全校で実施することにより、児童・生徒の危機回避能力の向上と、保護者の安全教育への意識啓発を図ることができた。学校の改築、改修等については、計画的な維持改修により、施設機能の維持・向上を図り、安心・安全な教育環境の整備を行った。小学校への可動式PC及び無線LAN整備は順調に進められ、各学校において運用を開始でき、ICT機器を活用した授業を展開することができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>安全教育を推進し、児童・生徒、保護者等の意識啓発を図るとともに、老朽化が進む学校施設についても、計画的に維持改修を行うことで、安心・安全な教育環境の整備が進められている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	一部対応済
<p>「スマートフォン・携帯電話を使うためのルール」にゲーム依存や自撮り被害等の内容を明記することにより、青少年を取り巻く環境変化へ対応している。建設経費の高騰に伴う入札面での課題に対し、施設規模や仕様の見直し等を行い、適切な工事内容となるよう検討・調整を図っている。</p>		
今後の展開方針	<p>老朽化が進んだ学校施設や学校設備については、改築や改修等を計画的に実施し、児童・生徒の安全を確保し、学校施設の機能向上を図っていく。子どもたちが生涯にわたり安全に生活していくために、危険を予測・回避し、自ら身を守る力を身に付けられるよう、各学校における安全教育を推進、充実させていく。また、スマートフォン等情報端末の使用については、正しい知識を身に付け、犯罪被害等を未然に防止できるよう、引き続き周知・啓発を行っていく。</p>	

重点施策7 地域による学び支援活動の促進		
成果の分析	評価評語	順調
<p>学校支援地域本部事業は、全校実施となったこともあり、学校支援ボランティアの人数が大幅に増加し、活発な活動につながった。また、板橋区コミュニティ・スクール導入に向け、検討会や連絡会等にて情報共有や意見交換等を行い、準備・検討を着実に行った。「地域人材育成の支援」（教育支援センター）においては、学習支援ボランティアと学校とのコーディネートが順調に進められ、学校からの要望に応えられており、学校支援につなげることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>学校の教育活動に地域のボランティア等が参画する仕組みを整えていくことで、学校・地域・家庭が一体となって子どもたちの学びを支援し、より良い教育の実現に向けて取り組むことができている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	検討中
<p>全校実施5年目となった「あいキッズ」については、利用者から、利用区分が複雑でわかりにくい、学習支援を行ってほしい等の意見をいただいている。利用区分については、見直しを検討し、学習支援については、学習できる環境づくり等を委託法人へ指導していく。</p>		
今後の展開方針	<p>学校が向き合う課題に対し、保護者や地域等との連携・協働体制を構築し、より良い教育環境の充実を図るため、板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の全校導入をめざしていく。</p>	

重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実		
成果の分析	評価評語	順調
<p>中高生や若者の活動の場である「i-youth」の利用者数は順調に増加しており、ダンスフェスタ実施においても、中高生が主体となった事業づくりを進めることができた。八ヶ岳荘のリニューアルは順調に進められ、施設の価値や魅力の向上が図られた。また、中央図書館の改築についても、設計や工事を計画どおり進めることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>生涯学習センター内に「i-youth」が整備され、シニア世代だけでなく、中高生や若者についても様々な事業への参加・参画が促進され、世代を超えた「学びの循環」に向けた支援につながっている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	検討中
<p>一般用「読書通帳」は、インターネットや窓口で配付をしており、事業として定着はしているものの、満了届は毎年度減少傾向にあるため、事業検証や内容の見直しを行っていく。史跡公園整備はグランドオープンに向け、設計や工事を計画的に進めているが、一般公開前の活用方法が課題となっている。平成30年度は文化財講座にて限定的に一般公開を実施し、好評を博したので、今後も一般公開事業の拡充を検討していく。</p>		
今後の展開方針	<p>生涯を通じた学びの場を提供する施設として、中央図書館の改築を契機に、図書資料の充実や読書活動等の事業を推進していく。また、中高生や若者の活動や学習支援の場として整備した「i-youth」においては、若者が主体的に事業の企画・運営に携わり、事業を実施するための支援を行うとともに、不登校等の悩みを抱えた若者が、家庭・学校以外の居場所として安心して過ごすことのできる場をめざしていく。史跡公園や旧粕谷家住宅等、高い評価を受けている文化財について、適切に保存・活用を行うことにより魅力・価値をアピールしていく。</p>	

重点施策9 家庭における教育力向上への支援		
成果の分析	評価評語	順調
<p>「家庭教育支援チーム」は、予定通り2チームのモデル実施を開始することができ、訪問型の家庭支援への足掛かりをつくることができた。集会事業「子育て記念日」は、家庭教育・子育て講座から派生したグループや、地域の子育てグループ、子育て支援のNPO等が実行委員会を組織し、企画・運営を行うことにより、保護者同士の交流や学び合う機会を設けることができた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>家庭において保護者や子どもが自ら学んだり、生活習慣を身につけていくために、チェックシートの活用や家庭教育講座等を開催することにより支援できている。また、家庭環境が複雑化し、家庭への支援は困難を伴うが、関係各署と調整し、「家庭教育支援チーム」のモデル実施を開始したことにより具体的な家庭支援を推進することができている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	対応済
<p>家庭教育講座や子育て記念日等への参加者や参加団体が減少する中で、子育てに関わる区民に多様な世代との交流を促す機会を提供するため、集会事業の統合を検討した。「家庭教育支援チーム」は、支援対象を絞ることで、効果的な家庭教育支援を行う体制を構築した。</p>		
今後の展開方針	<p>不登校の児童・生徒がいる家庭に対し、「家庭教育支援チーム」による訪問型支援を拡充し、地域人材と学校とが緊密に連携・協力しながら支援を継続していく。</p>	

すべての方向性に共通する事業		
成果の分析	評価評語	順調
<p>広報活動の充実や身近な教育委員会の開催等により、教育委員会の事業について、地域や保護者に対して効果的に伝えることができた。各事業の自己点検並びに外部人材による評価を受けることで、事業内容の見直しや改善につなげることができた。学校における教育活動を支援していくため、経営支援部や事務分掌の見直しなどにより、学校組織マネジメントの効率化を進めた。</p>		
手段の分析	評価評語	妥当
<p>身近な教育委員会の開催や、広報活動の充実により、学校・家庭・地域との結びつきを深めることができている。点検・評価を行うことにより、各事業の取組が客観的に見直され、改善につながっている。</p>		
環境変化の分析	評価評語	対応済
<p>学校現場における教員の長時間労働が問題視される中、経営支援部や事務分掌の適正化の推進により学校組織マネジメントの効率化を図るとともに、「板橋区立学校における教職員の働き方改革推進プラン2021」を策定し、在校管理システムの導入等により、教職員の働き方改革推進のための環境を整えた。</p>		
今後の展開方針	<p>平成30年度に策定した「板橋区立学校における教職員の働き方改革推進プラン2021」に基づき、教職員の働き方改革を計画的に推進していく。開かれた教育委員会を目指し、身近な教育委員会の開催や広報活動の充実を図っていく。</p>	

※特別に評価すべき事業については、事務事業評価のみ実施しています。

#### 4 一次評価【所管課長による事務事業評価】結果

重点施策1 確かな学力の定着・向上				
重点事業名		「板橋区 授業スタンダード」による授業革新の取組		
1	「板橋区 授業スタンダード」の全校実施			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	<p>学力の定着状況の指標の一つとして捉えている全国学力・学習状況調査の平均正答率では、平成30年度、全国平均とほぼ同等となった。これは、全ての教員が「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業の改善に取り組むことを通して、子どもたちに「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性といった学びに向かう力、人間性等」の育成が図られた成果である。各校で若手教員が増加している現状を鑑み、小中学校、各教科等において授業力の高い教員に「板橋区 授業スタンダード」を取り入れた模範的な授業を公開し、若手教員に指導・助言を行うなど、より授業に生かしやすい取組を工夫するとともに、授業力の高い教員の人材育成も併せて進めていく。</p>			
2	板橋区立学校学級安定化対策事業（アセスメント）の実施			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	<p>区立小中学校76校で全2回のアセスメント、効果的な活用に向けた説明会を6回開催した。各学校では、結果分析の校内研修会を開催するなど、アセスメントを活用した工夫した取組により児童・生徒理解が進んできた。今後は、アセスメントの効果的な活用及び成果をあげている学校の取組を教育委員会から広く周知するなどし、確かな学力の定着とともに、いじめの発生・深刻化の予防やいじめ被害にあっている児童・生徒の発見、不登校の未然防止に結び付けていく。</p>			
重点事業名		確かな学力を定着させるフィードバック学習方式の充実		
3	フィードバック学習教材及び補助教材の整備・拡充			指導室
	評価評語	達成	改善の方向性	事業の廃止
	<p>調査結果をC4t hに取り込み、各学校で閲覧可能にし、学校ごとに分析を行うとともに、フィードバック学習教材及び補助教材を整備した。また、全国学力・学習状況調査の区の平均正答率は小学校国語A・B、算数A・B、中学校国語B、数学A・Bにおいて全国平均正答率を上回った。今後は確かな学力の定着・向上に向け、東京ベーシックドリルも活用していく。</p>			
4	フィードバック学習教材及び補助教材を活用した補習教室や個別学習の充実			指導室
	評価評語	達成	改善の方向性	事業の廃止
	<p>全小中学校の教育課程に放課後や長期休業中の補習教室での活用を位置付け、整備を進めた。また、夏季休業中に区立全小中学校で夏季休業中に前後期各5日（合計10日間）以上の補習教室を実施した。今後は、確かな学力の定着・向上に向け、東京ベーシックドリルも活用していく。</p>			
4	フィードバック学習教材及び補助教材を活用した補習教室や個別学習の充実			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	<p>平成30年度は全51校で宿題以外の学習支援を実施した。引き続き、あいキッズでは、児童が放課後自主的に学習する環境を作っていく、学力向上を図っていく。</p>			

重点事業名	理科教育の充実		
5	板橋区版「理科実験指導資料（小学校）」の作成、活用		指導室
	評価評語	順調	改善の方向性
	工夫して継続		
板橋区版「理科実験指導資料（小学校）」がすべての教員が活用できるよう、冊子の配布は行わず、全教員がデータで参照できるようにする。今まで以上に板橋区版「理科実験指導資料（小学校）」を活用し、理科教育の推進を図っていくために、小学校の教育研究会理科部と連携して、活用を促していく。			
6	理科教育重点モデル校事業の実施		指導室
	評価評語	達成	改善の方向性
	事業の廃止		
理科教育重点モデル校を小学校及び中学校に1校ずつ指定し、地域の人材や大学生を活用した理科教育の充実や、教育科学館との連携を図ることができた。今後は、板橋区版「理科実験指導資料（小学校）」を活用した取組や科学的活動を重視した授業を行うことにより、各小中学校での理科の授業を充実させ、区内全児童・生徒の理科教育への興味・関心及び科学的思考力の向上をめざしていく必要がある。			
7	教育科学館の理科支援		生涯学習課
	評価評語	順調	改善の方向性
	工夫して継続		
出前理科実験教室については、目標値には届かなかったものの、利用校数は増えてきている。今後も各学校へ周知しながら、担当教員らと連携し、事業を継続する。ロボットプログラミング講座に関しては、昨年度に引き続き実施した習熟度別のロボットプログラミング教室に加え、ファーストレゴリーグ出場に向けての活動に力を入れ、参加者数実績値が増加した。指導にあたる科学指導員のスキルも向上しており、講座の内容も研鑽されつつある。また、受講者のレベルも上がっており、ファーストレゴリーグ出場という目標を達成することが出来、順調に事業は進行している。事務事業に掲げた2つの事業の内容を充実させ、子どもたちの理科に対する興味・関心を高め、科学的思考力の向上に努めていく。			
重点事業名	学校図書館の充実		
8	学校図書館の充実		学務課 中央図書館
	評価評語	概ね順調	改善の方向性
	事業手法の見直し		
学校図書館をさらに充実し、読書活動・学習活動を推進するために、司書配置や図書購入等を引き続き行っていくとともに、除籍の推進により環境整備も行っていく必要がある。また、貸出冊数の増加に向けた啓発等を工夫して行っていきたい。これに加え、週1日しかない司書配置を効果的に運用していくため、また、開館時間の拡大につなげていくため、図書館サポーター、学校図書館ボランティアとの連携を継続していく必要がある。			
重点事業名	教育支援センターの活用による「魅力あふれる質の高い授業の実現」		
9	「研究と研修の一体化」による学校力・授業力の向上		教育支援センター
	評価評語	順調	改善の方向性
	工夫して継続		
平成29・30年度いたばしの教育ビジョン研究奨励校においては、研究の成果について、授業公開を含む研究発表会を4校が実施した。特に志村小学校及び中台中学校の研究発表会は、研究主任研修と兼ねて実施したため、全小中学校の研究主任が研究の有効な進め方等について実践的に学ぶことができた。研修については、教員の経験年数や職に応じた研修や研究奨励校等の発表に参加する研修である「学校力向上研修」、複数のテーマをシリーズ化して実施する「教育の板橋課題研修」、授業力向上に特化した「授業革新研修」等、全54講座を実施し、3,254名が参加した。			

重点施策2 豊かな人間性の育成				
重点事業名		キャリア教育・体験活動の充実		
10	アントレプレナーシップ教育の導入・推進			指導室
	評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
	アントレプレナーシップの視点を取り入れたカリキュラム及び各小中学校で職場見学・職場体験を、全小中学校で教育課程に位置付け、実施した。キャリア教育推進委員会を4回開催し、新学習指導要領の実施に向けて、キャリア教育副読本「わたしたちの進路」の見直しを図り、副読本にアントレプレナーシップ教育の視点を入れた単元を新たに追加して作成し、全小中学校での活用を促す。			
重点事業名		いじめ防止対策の推進		
11	各学校における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組			指導室
	評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
	「板橋区いじめ防止対策基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・早期対応・を基本方針として、全学校園において「学校いじめ未然防止等基本方針」を教育課程に位置付けている。全校でいじめアンケート調査（年間3回）やいじめに関わる研修、いじめに関する授業を年間3回（学期に1回）、そのうち1回を保護者や地域に公開するなど、いじめ防止に向けて取り組んでいる。「いじめ問題専門委員会」は、学識経験者や関係諸機関等からの意見を得る貴重な機会であり、今後も継続して開催していく。			
2	板橋区立学校学級安定化対策事業（アセスメント）の実施【再掲】			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	区立小中学校76校で全2回のアセスメント、効果的な活用に向けた説明会を6回開催した。各学校では、結果分析の校内研修会を開催するなど、アセスメントを活用した工夫した取組により児童・生徒理解が進んできた。今後は、アセスメントの効果的な活用及び成果をあげている学校の取組を教育委員会から広く周知するなどし、確かな学力の定着とともに、いじめの発生・深刻化の予防やいじめ被害にあっている児童・生徒の発見、不登校の未然防止に結び付けていく。			
重点事業名		持続可能な開発のための教育（ESD）の推進		
12	「板橋区環境教育推進プラン2025」に基づく保幼小中一貫環境教育の推進			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	新学習指導要領に合わせて、「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を見直し、改訂した。また、ユネスコスクール申請校の板橋第二小学校、板橋第七小学校の全校児童を任命し、児童・生徒の「環境についての感受性、共生や思いやりの心」「環境に対する見方・考え方」「環境に働きかける実践力」を育むことができた。			
13	ユネスコスクールの申請			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	ユネスコスクール加盟校の板橋第二小学校及び板橋第七小学校と、加盟申請校の高島第一中学校が、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点として、区立学校にESDを推進した。また、平成31年2月に、同小学校2校がエコポリスセンターで、子ども環境大使として1年間の取組内容を発表した。			

重点事業名	「絵本のまち板橋」の推進		
14	「児童向け絵本作りワークショップ」の開設		中央図書館
	評価評語	順調	改善の方向性
	工夫して継続		
小学生向け絵本づくりワークショップは「絵本づくり」が体験できる貴重な機会である。参加者が図書館で絵本を手にするところからはじまり、表現力・想像力を使ってオリジナリティある絵本を仕上げている。当該事業は、この「過程」を大切にするとともに、多くの希望する児童が参加できる募集形態にする工夫が必要である。			
15	いたばしポローニャ子ども絵本館の充実		中央図書館
	評価評語	概ね順調	改善の方向性
	目標値・指標の見直し		
各事業の運営は概ね順調である。「絵本のまち板橋」の推進を測る指標には、絵本を手取る・感じられる機会を提供するなどの展示の展開や、区内外への資料貸出などの設定を検討する必要がある。			



重点施策3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進				
重点事業名		オリンピック・パラリンピック教育の推進		
16	板橋区オリンピック・パラリンピックプラン「いたばし5つの取組」の策定・推進			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	板橋区オリンピック・パラリンピック教育プランとして、“まなぶ・うごく・かかわる・ふれあう・もてなす”をキーワードとして策定した「いたばし5つの取組」を基に、今年度は「うごく、かかわる」を重点に各校で取り組み、各視点における内容の明確化・焦点化を図った。重点校による推進委員会を年間計3回開催し、先進的な取組を共有し、各学校の取組の充実を図った。			
17	行動体力の向上に向けた一校一取組活動の推進			指導室
	評価評語	未達成	改善の方向性	事業手法の見直し
	区立全学校園において体力テスト等の結果を踏まえて体力向上推進計画を作成し、その中に一校園一取組・走快プロジェクトを位置付け実施した。体力合計点の区の平均値を平成27年度より10%向上させるには至らなかったため、体力テストの各種目の具体的な目標値を再設定し、課題を踏まえた体力向上策を検討する必要がある。			
重点事業名		子どもたちの健康増進		
18	防衛体力の向上に向けた健康教育・食育の推進と啓発			指導室・学務課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	体力向上推進委員会防衛体力部会を4回開催した。保健指導部会では、「SOSの出し方に関する教育」の授業実践、食育指導部会では、新学習指導要領における「学校における食育の推進」についての重点事項を授業実践し、教育データベースを活用して取組内容を区立学校園に発信した。また、取組内容を体力向上リーフレットにも掲載して区立学校園の保護者宛てに配布し、保護者への意識啓発を図った。			
19	子どもの健康づくり事業			教育支援センター
	評価評語	達成	改善の方向性	事業の廃止
	株式会社タニタの健康づくりの考え方を学習活動に取り入れ、児童に健康意識を高める指導の在り方を確立した。自分の運動量や、食の傾向、睡眠時間を調べることで、自分の体の状態を知り、改善に向けた方法を考え、実践する健康づくりのPDCAサイクルを策定し、実行性のある具体的な取組を行うことで、健康づくりへの児童の意識が高まった。しかし、株式会社タニタのデータ分析から、体重や体組成に変容は現れにくいことが明らかになった。			
20	学校給食における安全対策の充実			学務課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	食物アレルギーを持つ児童・生徒数は毎年増加し、重篤な児童・生徒や複雑なケースも多い。安全な学校生活を保障するために、学校給食のアレルギー対策の一層の強化を図るとともに、学校と連携して、安全対策の情報提供や知識の普及・啓発を行い、保護者等への理解を促進する有効な事業である。			
21	給食用設備・備品の更新			学務課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	事業は計画通りに進行している。区立小中学校の給食用設備・備品の中には、老朽化が進み更新時期を迎えているものも少なくない。今後も安心して安全な学校給食を安定的に提供していくために、老朽化した設備・備品を計画的に更新していく必要がある。			

重点事業名		英語教育の充実			
22	板橋区版「英語村」の検討・開設			生涯学習課	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続	
	<p>「英語村」は、学校の夏休み期間を活用し、英語学習に対する興味・関心を高めてもらう事業として、非常に有効であると考えている。参加者に実施したアンケートでも、参加前と参加後で英語を「好き」または「どちらかと言えば好き」と感じている割合が大幅に上昇し全体の9割を超えている。カリキュラムもオールイングリッシュでの展開から刺激を受けるためか、英語によるコミュニケーション能力を高めたいというモチベーション向上につながっていると考えられる。これまでの事業の検証からは、大きな改善ではなく、現在の事業スキームを継続しながら、実施するコースに合わせたカリキュラムの調整が効果的であると判断している。一方で課題については、小学生コースのニーズに対して実施回数が足りていない点が挙げられる。特に平成30年度では小学生コースに定員の2倍の申し込みがあったことから、実施するコースの適正化は早急に検討すべきものであると考えている。この定員については、参加者のリピート志向が強いため、年を重ねるほど潜在的な参加者が増加するという構造的な問題になってきている可能性がある。また、英語村を一過性の事業にしないため、参加者の多文化共生意識の醸成や、キャリアデザイン支援につなげる方法についても検討したいと考えている。</p>				
23	小学校における英語教育の充実			教育支援センター	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続	
	<p>平成29年度までに、各校1名の英語教育推進リーダーの育成を図り、平成30年度には、英語教育の指導に興味関心の高い教員に対して、研修を実施し、指導力を向上させた。平成30年度をもち、小学校英語教育研修は終了となるが、他の英語教育に係る研修をとおして小学校英語の更なる充実につなげていく。</p>				

重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備				
重点事業名		全ての子どもたちへの学習機会の確保		
24	「中高生勉強会」の実施・推進		生涯学習課	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	平成30年度は4月から事業を開始し、通年で学習支援と居場所の提供を行うことができ、概ね順調に運営できている。前年度からの継続参加者もあり、なかには、中学から高校に進学した後も引き続き参加する生徒もみられ、前年度と比較して高校生の参加割合が若干ではあるが上昇する結果となった。参加者対象のアンケート調査では、「毎週勉強していると、授業で自信が持てるようになった」、「いつも優しく教えてもらって、勉強が好きになった」など、本事業への参加によって、生徒自身の勉強に対する気持ちの変化が伺える回答が複数あり、事業実施の効果が表れたものと評価できる。同アンケートでは、事業参加全体について、「とてもよかった65%」、「よかった35%」とする感想を得ており、勉強以外のことを問う設問では、支援者との会話や交流についてよかったとする回答が多く、学校以外の友人ができたことがそれに続く結果であった。本事業への参加を通して、中高生がこれまでになかった人間関係を広げる機会ともなっている。事業を継続していく中で、参加者と支援者との良好な関係が築かれ、気軽な相談や交流の機会としても定着し、居場所としての機能を高めつつある。本事業は、中高生にとって、参加しやすい学習機会であるとともに、さまざまな事情を抱える生徒を含め、安心して過ごすことができる居場所づくり事業としても推進する。			
重点事業名		教員の指導力の向上		
25	「板橋アカデミー」の開設・運営		教育支援センター	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	教育課題に関わる内容について取り上げるとともに、受講者のニーズを捉えた内容で実施し、毎月1回の開催を継続できた。講演とともに、その内容について受講者同士で協働する時間を設けることで、教員の指導力の一層の向上を図る。			
26	「板橋アドバイザーズ・ラボ」の開設・運営		教育支援センター	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	教育のニーズに合わせた専門講座の開催とともに、教育支援センターでの各種研修の終了後、ICT支援員によるICTミニ研修を、10回開催し、合計205名が参加した。教員の課題や悩みに応じた講座を設定することで、主体的に教員の指導力を高めていくことができた。アドバイザーの専門性と教員のニーズに合わせたテーマを設定した専門講座については、令和元年度も3回開催する予定である。ICT支援員によるICTミニ研修は、教育支援センターでの各種研修の終了後10回開催する予定である。各種研修の対象者に合わせて実施内容を検討していく。			
重点事業名		特別支援教育の充実		
27	学校生活支援シートの活用		指導室	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	改訂された学習指導要領において、障がいのある児童・生徒について、個別の教育支援計画（学校生活支援シート）を作成し、活用することに努めるとされている。また、特別支援学級に在籍する児童・生徒や、通級による指導を受ける児童・生徒については、個別の教育支援計画（学校生活支援シート）や個別の指導計画を作成し、効果的に活用することとなっている。作成率の向上だけでなく、支援を必要とする児童生徒一人ひとりの望ましい成長や発達、本人及び保護者の願いの実現をめざし、作成したシートを活用しながら支援の充実を図っていく。			

	特別支援教室の導入			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
28	小学校については、新拠点校を増やし、新たなエリアで巡回指導を実施した。中学校については、令和元年度（平成31年度）巡回指導開始校の設置準備を完了し、平成30年度から開始した巡回指導の円滑な推進を図りながら、令和3年度の完全実施を目指す。			
	特別支援学級の設置			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
29	特別支援学級に在籍する児童生徒が増加傾向にあるため、新たな特別支援学級設置校の検討を継続して行う。また、新しい学校づくり課へ校舎改築等の際に特別支援学級等の設置を推進するよう働きかけを継続する。			
重点事業名		不登校対策の推進		
	スクールソーシャルワーカーの拡充・活用			教育支援センター
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
30	複雑に絡み合う、心の問題と環境の問題双方に対応するために、心理相談員（教育相談員やスクールカウンセラー）との連携が欠かせない。助言を求めたり、合同のケース検討会議を設けたりするなど、今後も心理相談員との連携を強化し、質の高い支援に向けたスキルアップを図っていく。			
	不登校改善重点校事業			指導室
	評価評語	停滞	改善の方向性	事業手法の見直し
31	不登校改善重点校では、学校生活において課題の見られる児童・生徒への支援やその保護者との相談等に「家庭と子どもの支援員」等を活用して、学校と家庭で児童・生徒の情報を共有し、教員が個々の児童・生徒理解を深めるとともに実態に即した対応策をとることができた。しかし、板橋区全体の不登校出現率は高く、改善に向けて大きな課題が残っている。不登校改善重点校指定の視点を見直すとともに、専門家からの助言を仰ぎながら、板橋区全体の対応指針を定める等、不登校重点校での取組や成果を広く周知し、徹底させるための取組を工夫していく必要があると考える。			
	不登校対策特別委員会の設置			指導室
	評価評語	停滞	改善の方向性	事業手法の見直し
32	不登校対策特別委員会では、不登校改善重点校の校長、子ども家庭支援センター、適応指導教室等の関係者が委員となり、不登校減少に向けた実効性の高い具体的な取組を検討及び実践することができた。不登校対策特別委員会については、重点校の指定および、重点校による取組の実践、重点校の効果的な取組の周知を計画どおり進行することができた。しかし、全国的にも不登校の出現率は上昇しており、本区においても出現率の減少は見られていない。教育委員会として不登校対策特別委員会を設置し、不登校改善に向けた効果的な取組を実践し、広く周知する方法は適切であると考え、専門家からの助言を仰ぎながら、板橋区全体の対応指針を定める等、板橋区立学校全体で不登校対策を徹底するための取組を工夫していく必要があると考える。			
	「家庭教育支援チーム」の設置			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
59	不登校児童生徒の情報を把握している学校、家庭への支援の中心となる民生・児童委員、専門的な立場による支援を行うSSWとそれぞれ調整を行い、平成31年2月より常盤台小学校・志村第四中学校において、地域・学校・教育委員会が連携した家庭教育支援チーム（モデル）の運用を開始した。今後も、関係機関・学校・支援者との緊密な連携を基に、効果的な支援体制の構築をめざす。そのためには、支援が必要な家庭のニーズを把握し適切な対応ができるよう、支援者の養成を図っていくとともに、学校側の理解を高め、対象家庭の信頼を得て、チームとしての一体感を醸成することが重要である。			

重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現				
重点事業名		保幼小中一貫に向けた教育の推進		
33	「学びのエリア」を生かした小中一貫教育の推進			教育支援センター
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	平成28・29年度で国語、算数・数学、英語、キャリア教育の各部会で作成した小中一貫教育指導資料や教材について、教育の板橋課題研修「小中一貫による学力向上」のみにとどまらず、様々な研修の機会を捉えながら資料等の活用等について周知を図り、9年間の系統的な指導について推進を図った。小中一貫による学力向上をテーマとして研究に取り組んだ5つの学びのエリアの実践例の協議や各学校園への周知を通して、各学びのエリアの実態に合った取り組みにつなげるよう次年度の研修設定を行う。			
34	小中一貫校（義務教育学校）の施設整備に向けた検討			学校配置調整担当課 新しい学校づくり課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	小中一貫教育に関する検討報告書を受けて、小中一貫教育推進プロジェクトチームを設置し、小中一貫教育の推進を行った。このことにより役割分担が明確になり、新しい学校づくり課においては小中一貫教育の周知ペーパーを作成し、V o 1. 1～5まで発行した。令和2年度からの本格実施に向けて、具体的な教育内容については指導室、教育支援センターが受け持ち、施設整備の面では「いたばし魅力ある学校づくりプラン」のなかで新しい学校づくり課が検討し、引き続きの周知活動とともに推進していく。			
12	「板橋区環境教育推進プラン 2025」に基づく保幼小中一貫環境教育の推進【再掲】			指導室
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	新学習指導要領に合わせて、「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を見直し、改訂した。また、ユネスコスクール申請校の板橋第二小学校、板橋第七小学校の全校児童を任命し、児童・生徒の「環境についての感受性、共生や思いやりの心」「環境に対する見方・考え方」「環境に働きかける実践力」を育むことができた。			
重点事業名		就学前の子どもへの総合的な教育の推進		
36	就学前の子どもたちへの読書活動の推進			中央図書館
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	かるがもタイムは全館で実施されており、各館での創意工夫による親子向けイベントをあわせて実施している。妊産婦用読書通帳は、就学前の子どもがいる家庭における「読み聞かせ」の浸透を図り、子育て等に役立つ「おすすめ本」等の有益な情報を掲載し、読み聞かせの記録として活用を促すため、平成29年3月から配布・配信を開始した。今後も継続し、事業の定着を図っていく。ブックスタートは、配布開始時期を従来の4か月検診から母子手帳交付時に平成27年度から改めたことにより、配布実績が順調に定着している。親子読み聞かせ講座は、平成28年度から講座数を1回から2回に増やしている。親子で参加する講座であるが、複数の子どもがいる方のために、一時保育サービスを実施し、受講者の参加機会の拡大と利便性の向上が図られている。			
60	「小学校・中学校入学前に身につけたい生活習慣」チェックシートの配付・活用			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	チェックシートの配布・アンケート調査を継続するとともに、アンケート調査を基にチェックシートの内容やアンケート方法等の改善について検討していく。			

重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備			
重点事業名		自分を守り、相手を大切にする教育の推進	
37	「スマートフォン・携帯電話等情報端末使用ルール」の策定		地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
リーフレットの配布・アンケート調査を継続するとともに、アンケート調査を基にリーフレットの内容やアンケート方法等の改善について検討していく。			
38	安全教育の推進		指導室
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
交通事故については、定例校長会や安全防災担当者研修会、生活指導主任研修会等において、実際にあった事故を例に挙げ、各校園での安全教育を意図的・計画的に進めるよう啓発してきた。なお、事故の半数は自転車事故であるので、その減少に向けて、自転車安全利用に関するワークシート等を活用しながら、保護者・地域と連携した自転車の安全な利用に関する意識の向上を図る。また、セーフティ教室の充実を図り、児童・生徒の危機回避能力を高める。安全防災担当者研修会は、引き続き各校園から担当者1名を必ず出席するようにして、安全教育を全校園でさらに推進させていく。			
重点事業名		魅力ある学校づくり（プラン）の推進 ～将来を見据えた学校の施設整備と適正規模・適正配置の一体的な推進～	
39	区立学校の適正規模・適正配置の推進		学校配置調整担当課 新しい学校づくり課
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
児童増に伴う普通教室確保への調整対応や、「いたばし魅力ある学校づくりプラン」第1期対象校の閉校後処理について、丁寧かつ確実に実施した。また、同プラン第2期・第3期対象校の調査・検討については、新たな人口動態情報の収集・分析を行い、対象校の対応方針について個別検討を行った。同プラン第2期対象校対応方針の報告後は、対象校・保護者・地域への丁寧な説明に努め、学校の適正規模・適正配置と持続可能な教育環境の整備を進めていく。			
40	学校の改築		新しい学校づくり課
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
板橋第十小学校については予定通り解体工事及び埋蔵文化財調査を完了した。上板橋第二中学校については、入札スケジュールの遅延により、全体の改築工程が後ろずれとなっている。志村小学校の擁壁調査は予定どおり完了した。板橋第十小学校及び上板橋第二中学校は施設経営課と連携し、進捗状況の確認等情報共有に努め、安全に配慮する。			
41	学校の大規模改修		新しい学校づくり課
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
大規模改修基本設計についてはこれまでの大規模改修工事に替え、長寿命化の視点を新たに導入するため、プロポーザルにより設計業者の選定を行った。学校施設を長期的に使用するための建築物の構造的な工夫などについて検討を行うことができた。基本設計については当初の予定通り3月に完了した。劣化度診断調査についても次期個別整備計画との整合を図るため、契約時期を約3か月遅らせたが、1月に調査を完了することができた。			
42	学校施設の改修		新しい学校づくり課
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
計画的に維持改修を行い、施設機能の維持・向上を図り、安心・安全な教育環境の整備を実施している。トイレ改修については平成30年度から計画的に工事を行っている。今後とも、児童・生徒の安全に配慮し、施設経営課と連携して工事を実施する。			

重点事業名	学校ICT化の推進		
44	授業用ICT機器の整備・活用		教育支援センター
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
	多くの教員がICT機器を活用した授業を展開している。更に効果的な活用を進めていくために、優良事例の共有化、ICT支援員によるサポート、各種研修を充実したものにすることが必要である。また、ICT機器の活用の幅を広げるために、整備機器の導入台数の拡大等の検討をしていく。		
45	デジタル教科書の整備・活用		教育支援センター
	評価評語	順調	改善の方向性 工夫して継続
	多くの教員がICT機器を活用した授業を展開している。更に効果的な活用を進めていくために、優良事例の共有化、ICT支援員によるサポート、各種研修を充実したものにすることが必要である。また、次期教科書改訂にあわせて、全小・中学校へのデジタル教科書の導入拡大を検討していく。		
重点事業名	学校施設及び通学路の防犯対策の充実		
	「学校内防犯カメラの更新」及び「通学路防犯カメラの設置」については、平成28年度に更新及び設置が完了しているため、点検・評価の対象外としています。		

重点施策7 地域による学び支援活動の促進				
重点事業名		地域人材による学校支援と参加の促進		
48	学校支援地域本部事業の拡大			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	目標値・指標の見直し
	全校実施の目的は達成したので、ボランティアの量的拡大だけでなく、持続可能な体制の構築、質の向上を目指した取組・支援が求められる。コーディネーターの継続的な確保や相談機能の強化をめざしつつ、新たな指標についても検討していく。			
49	板橋区コミュニティ・スクールの導入・検討			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	板橋区コミュニティ・スクール導入に向けて、検討会を年4回開催し、本格導入に向けた課題等について十分な協議を行った。また、板橋区コミュニティ・スクール導入推進校10校連絡会を年2回開催し、情報共有及び意見交換等を行った。令和2年度の本格導入に向け、今ある課題だけでなく、令和元年度の推進委員会から出される課題等について、検討会等を活用して協議しながら準備を進める必要がある。保護者や地域、教員等に対する周知についても、事業概要を周知するだけでなく、より具体的に、分かりやすく周知する等の工夫を行い、板橋区コミュニティ・スクール導入に向けた機運の醸成を図る。			
50	地域人材育成の支援			教育支援センター
	評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
	学習支援ボランティアの派遣については、支援を求めている区立学校園に大学生をコーディネートすることは、学校を支援することにつながり、教育支援センターの役割を果たしているとともに、教員をめざす学生にとっても、実際の学校現場を体験でき、児童・生徒とふれあい、具体的に教員としてのイメージを持てる等、双方にとってメリットがある。また、企業との連携については、協力の賛同を得た企業の特徴を生かしつつ、講座の実施方法などを検討して開催の実現に努めていく。			
50	地域人材育成の支援			生涯学習課
	評価評語	未達成	改善の方向性	事業手法の見直し
	生涯学習センターの運営方針を明確にし、各事業の目的を捉えるとともに、計画の進行管理を適正に行っていくことにより、未達成を生じさせないようにしていく。また、共催団体とは連絡調整を積極的に図っていく。			
重点事業名		地域・家庭・学校・民間と連携した健全育成の充実		
51	板橋区版放課後対策事業“あいキッズ”の推進			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	あいキッズ全校実施5年目となり、子どもの居場所を提供するだけでなく、運営の質やサービスの向上が求められている。民間活力をフル活用し、利用児童にとって放課後過ごす場所が、より安心・安全で居心地の良い場所となるとともに、保護者の仕事と子育ての両立を支援できるものにしていく。			



重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実				
重点事業名		世代を超えた「学びの循環」への環境整備		
52	(仮称)生涯学習センターの整備・開設・推進		生涯学習課	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	生涯学習センターは、様々な事業において区民の参画を進めてきたが、i-y-o-u-t-h設置後はその方針を中高生・若者に拡充していくことができている。今後は、若者の特性も考慮し、さらに事業を継続・発展させていきたい。			
54	少年自然の家八ヶ岳荘の整備		生涯学習課	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	令和元年度からリニューアルオープンしたことは、運営面刷新の大きなチャンスであり、施設に新たな魅力を付与するために重要な期間と捉えている。主管課及び指定管理者が密に連携し、サービス向上策や広報活動を充実させることで、施設の存在意義を拡充し、稼働率向上が図られると考える。			
重点事業名		図書館機能の充実		
55	中央図書館の改築		中央図書館	
	評価評語	順調	改善の方向性	目標値・指標の見直し
	平成30年度の事務事業については、概ね計画どおり進捗した。平成29年度より実施していた設計作業が完了し、平成31年3月に建設工事に着手した。今後は、新たな中央図書館での事業・サービスや運営体制について、より具体的な検討を引き続き進めていくとともに、新たな中央図書館への移転及び開館に向けた準備を詰めていく。特に公園と一体となった環境、絵本館を併設しての展開、いたばしギャラリーや読書テラスなど新しい環境の運営等の検討には工夫が必要である。			
56	生涯を通じた読書活動の支援		中央図書館	
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	新制度「図書館サポーター制度」の開始に向けて、平成29年度から準備を開始し、平成30年4月に要綱を全面的に改正した。平成30年度は、現登録ボランティアを対象に6月に説明会を実施し、新たな制度での活動内容について周知した。サポーターの登録も年度内に完了している。現登録ボランティアで活動している方には、スキルアップを目的に、活動待機者には育成を目的として、内容の充実を図りながら講座を実施した。サポーター制度へのスムーズな移行に向けて、平成31年3月にサポーターへの情報交換会を実施した。平成30年度中に準備が完了し、本年度から新制度として開始している。			
57	子ども読書活動推進計画に基づく読書の機会拡大		中央図書館	
	評価評語	停滞	改善の方向性	事業手法の見直し
	小中学校向け「読書通帳」は、平成29年度に区立小中学校の全児童・全生徒に配布し事業を開始した。通帳の内容は、小学校図書館部会、中学校国語部会と協議して、学校の要望を十分に取り入れたものとして作成し、配布することができた。在学中に活用してもらうことを前提に配布しているため、平成30年度からは新1年生と転入生用を作成し配布した。今後毎年、新1年生・転入生用を作成し配布していく。学校の協力を得ながら、在学中の有効活用をめざして継続的に実施していく。一般用の「読書通帳」は、窓口、インターネットで配布している。年間800件の満了を目標に全館で実施しているが、毎年度減少傾向にある。事業の定着はしているものの、配布数の伸び悩みが見えてきている。図書館イベントとの相関関係の検証を行うなど現状を分析し、事業手法を見直していく。			

重点事業名	地域の歴史・文化の継承と保護		
58	歴史的価値のある文化財の保存・継承・周知		生涯学習課
	評価評語	順調	改善の方向性
	工夫して継続		
<p>史跡公園整備はグランドオープンを見据え、スケジュール管理に細心に注意を払うとともに、史跡公園に対する区民の期待や要望を十分考慮した事業遂行が求められる。また、区各課との連携が必要であるので、緊密な連携を図っていききたい。旧粕谷家については、引き続き管理棟整備と放水銃設置といったハード面での整備を着実に実施していくとともに、ソフト事業の拡充に基づく集客にも努めていききたい。さらに、赤塚地域については今年度スタンプラリーを実施し、周辺の文化財を線で結び魅力を発信していく。</p>			

重点施策 9 家庭における教育力向上への支援				
重点事業名		家庭教育支援の推進		
59	「家庭教育支援チーム」の設置【再掲】			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	不登校児童生徒の情報を把握している学校、家庭への支援の中心となる民生・児童委員、専門的な立場による支援を行うSSWとそれぞれ調整を行い、平成31年2月より常盤台小学校・志村第四中学校において、地域・学校・教育委員会が連携した家庭教育支援チーム（モデル）の運用を開始した。今後も、関係機関・学校・支援者との緊密な連携を基に、効果的な支援体制の構築をめざす。そのためには、支援が必要な家庭のニーズを把握し適切な対応ができるよう、支援者の養成を図っていくとともに、学校側の理解を高め、対象家庭の信頼を得て、チームとしての一体感を醸成することが重要である。			
重点事業名		家庭における生活習慣の形成支援		
60	「小学校・中学校入学前に身につけたい生活習慣チェックシート」の配付・活用【再掲】			地域教育力推進課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	チェックシートの配布・アンケート調査を継続するとともに、アンケート調査を基にチェックシートの内容やアンケート方法等の改善について検討していく。			
61	年齢別講座の実施			生涯学習課
	評価評語	概ね順調	改善の方向性	事業手法の見直し
	生涯学習センターが子育て中の区民の意見を反映させながら社会教育の事業として家庭教育・子育て講座を開催してきたことにより家庭における教育力向上への支援を達成することができた。「集会事業子育て記念日」は、子育てに係わる区民が多様な世代との交流を促す機会として、成増生涯学習センターの2つの集会事業である作品展、サークルフェスティバルと統合して、新たにまなぼーと成増フェスタとして開催する。			

すべての方向性に共通する事業			
重点事業名		区民が身近に感じる教育委員会の実現	
62	広報活動の充実		教育総務課
	評価評語	順調	改善の方向性
			工夫して継続
教育委員会の取組や施策、学習活動の様子を積極的に広報することで、区民がより身近に感じる、開かれた教育委員会の実現に努めており、また、教育委員会の行っている事業について区長部局への理解を図るために、職員向けにも教育広報・教育チャンネルの配信を始めた。今後も配信方法などについて検討を行い、区民が求める情報をよりわかりやすく提供できるよう工夫して継続していく。			
63	主体的に働きかける教育委員会の充実		教育総務課
	評価評語	順調	改善の方向性
			工夫して継続
身近な教育委員会等を実施することにより、教育委員会の方向性や各事業の進捗状況などを保護者・地域の方に直接的にお伝えすることができており、開催にあたっては保護者・地域の方が参加しやすいよう、夜間の開催や学校での開催など、様々な工夫を行っている。参加者数も増加傾向にあるため、今後は、保護者・地域の方に教育委員会をより身近に感じてもらえるよう、さらに周知に力を入れるとともに、その開催内容についても、引き続き検討を行い、教育委員会と保護者・地域の方の双方に実りのある事業となるよう、工夫して継続していく。			
重点事業名		PCDA サイクルの実践による効果的な事務事業の実施	
64	教育委員会の自己点検・評価の実施、外部人材の活用		教育総務課
	評価評語	概ね順調	改善の方向性
			事業手法の見直し
進行管理対象事業の進捗状況において、達成度が低い事務事業も見受けられたが、事業内容の再構築等により、各事業とも検討・改善が進められている。また、点検・評価を実施することで、各所管課が、外部評価や二次評価での意見を踏まえ事務事業を見直し、より実効性のある取組を行っており、教育委員会全体の活性化が図られている。今後も各事業がより充実したものとなるよう、点検・評価を実施していく。しかしながら、議会報告の際に、報告書がわかりにくいとの指摘を受けたので、構成等を改善し、見やすく、わかりやすいものを作成し公表することで、区民への説明責任を果たしていく。			

事務事業名		校務改善の推進		
65	経営支援部の推進			教育総務課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	経営支援部を設置し、定期的に横断的な調整会議を行うことで、学校組織マネジメントの効率化が図られている。また、優良事例を校長会等で全校に紹介することで、校務改善の効果的な推進につながっている。また、アンケート結果からは、経営支援部の基本理念・取組・構成員の役割等について、学校の教職員間でうまく共有できていないという意見が見受けられたため、研修等を通して経営支援部設置目的の共有を図っていきたい。次年度以降は、経営支援部を活用した働き方改革を推進していくため、働き方改革に関する目標を1つ以上定めることとし、その目標達成のための具体的な活動方法を定め、チーム学校として働き方改革に取り組んでいく。			
66	学校事務職員の分掌事務及び配置の見直し			教育総務課
	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
	事務室による経営支援モデル校の推進により、標準的な業務内容を定め、次年度より全中学校で事務室による経営支援の取組を行っていく。それにより、事務職員の学校経営への積極的な参画と専門性の更なる発揮が図られ、働き方改革の推進につながっている。また、事務室による経営支援の取組に関しては、経営支援部を効果的に活用していくとともに、経営支援部アンケート等で取組状況を把握し、取組を支援していく。なお、令和2年4月の新地方公務員法施行に伴い、小学校に配置している学校運営員の職務内容の見直しを行っていく。			

特別に評価すべき事業			
サービス規律の確保（体罰・個人情報保護）			指導室
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>体罰に関するサービス事故については、平成 29 年度及び平成 30 年度において発生していないため、取組の成果が出ていると考える。個人情報に関するサービス事故については、平成 29 年度は 1 件、平成 30 年度は 2 件発生しているため、今後も継続して取り組むとともに、体罰・個人情報に限らず、全てのサービス事故防止に向けた取組を進めていく必要があると考える。</p>			
教職員の働き方改革			教育総務課
評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>教員の長時間労働はこれまでも社会的な課題として認識されており、区教委においても、教員の長時間勤務の解消が喫緊の課題として捉え、教職員からの意見募集（7 月、12 月）や校長会での協議を繰り返し行い、「板橋区立学校における教職員の働き方改革推進プラン 2021」を策定した。今後の区プランの推進にあたっては、PDCA サイクルのもと、学校と区教委が協働し、保護者・地域社会の理解・協力を得ながら各取組を着実に実施していく。教職員の働き方を見直すことで校務全体の効率化を図り、教職員が健康で心身ともに充実して職務に専念することにより、最も重要な職務である児童・生徒への質の高い教育活動の実現をめざす。</p>			

## 5 平成30年度 教育委員会が行う点検・評価の二次評価結果への対応状況

重点施策1 確かな学力の定着・向上				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業革新への小・中学校の真摯な取組の成果として、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果からも分かるように、着実に児童・生徒の学力定着、向上が見られている。今後も「板橋区授業スタンダード」の徹底に向けた取組を継続し、さらに充実されることを期待する。しかしながら、学校間や教員間で指導力に差が見受けられるので、研修やロールモデル授業などを実施できる指導力のある教員の育成にも力を注ぎ、全体の底上げに努められたい。				
対応状況		一部対応済		指導室
学力の定着状況の指標の一つとして捉えている「全国学力・学習状況調査」の平均正答率では、平成30年度、全国平均とほぼ同等となった。今後も、授業における振り返りが徹底・定着するよう取組を継続していく。平成30年度から実施した教科等指導専門官制度を活用した取組を一層推進し、若手教員への指導・助言など、より授業に生かしやすい取組を工夫するとともに、授業力の高い教員の人材育成もあわせて進めていく。				
○平成30年度全国学力学習状況調査における無回答率の高さや70字～120字程度で記述する長文問題の正答率の低さから、「読み解く力の育成」が課題であると考え。東京ベーシックドリルができたことによるフィードバック学習教材の役割に鑑み、フィードバック学習教材を活用しつつも、「フィードバック学習方式」から「読み解く力の育成」への方向転換が図られることを期待する。				
対応状況		一部対応済		指導室
○平成30年度の「全国学力・学習状況調査」の結果は、(ほぼ)全国平均値にまで向上した。フィードバック学習方式による基礎・基本の定着は、ある程度の成果が見られたと考える。今後は、無回答率を少しでも低くし、条件に合わせて自分の考えを書きまとめる力を育成するために、「読み解く力の育成」を図り、さらなる学力向上に努める。				
○アセスメント(hyper-QU)を有効に活用し、教員の児童・生徒理解を深めるとともに、授業に集中できる環境を整え、より良い結果へとつなげられた。対象学年を拡大したいという学校要望に応える意味でも、教育委員会として成果の実証方法を各学校へ提示することを検討されたい。				
対応状況		一部対応済		指導室
各学校では、結果分析の校内研修会を開催するなど、アセスメントを活用した工夫した取組により児童・生徒理解が進んできた。今後は、アセスメントの効果的な活用及び成果をあげている学校の取組を教育委員会から広く周知するなどし、確かな学力の定着とともに、いじめの発生・深刻化の予防やいじめ被害にあっている児童・生徒の発見、不登校の未然防止に結び付けていく。				
○教育支援センターの研修は年々改善が見られ、教員のニーズに応じた研修が展開されてきている。積極的な参加者が増えてきているが、今後も工夫しながら、さらなる参加者増や有用な成果をあげられる教員の育成に尽力されたい。また、学力の定着・向上に欠かせない要素として教師の授業力がある。その向上のためにも教育支援センターでの研修の充実や、学校や自宅でも授業の様子を閲覧できる再生システムの構築、質の高い授業を参観できる機会の確保等に努められたい。				
対応状況		一部対応済		教育支援センター
教育支援センターの研修は年々改善し、教員のニーズに応じた研修の展開に努めた。学校や自宅でも授業の様子を閲覧できる再生システムの構築については検討を進めていく。なお、質の高い授業を再生した研修は実施しており、教師の授業力の向上に努めている。				

<p>○良い実験を通じた分析、考察・総括、応用展開を報告書にまとめる活動は論理的思考の育成に効果的とされており、板橋区版「理科実験指導資料」の開発と活用は、データサイエンスに対応できる人材の育成にも重要と考える。今後は、「理科実験」、「プログラミング教育」、「グローバル教育」を掛け合わせた教育プログラムを研究・開発し、STEAM教育を展開されたい。</p>		
対応状況	一部対応済	指導室
<p>○板橋区版「理科実験指導資料」については、各学校に配付するとともに、初任者等研修でも配付し、活用の充実を図っている。また、使用状況のアンケートも取り、さらなる活用の方法を探っている。</p> <p>○「プログラミング教育」については、小学校2校を研究校として指定し、研究を進めている。</p>		
<p>○各校の学校図書館については、司書の配置、学校図書館ボランティアの育成などにより、環境が整備され魅力的な施設として充実が図られている。事業指標にある一人当たり貸出冊数は、中学校で目標に未達ではあるが、放課後や長期休業中の自主学習や調べ学習等、読書活動以外の目的で活用するという視点もある。子どもたちが気軽に学校図書館を利用できる機会を増やし読書活動の推進に努められたい。また、学校図書館の活用は授業外での教育効果を向上させる上でも重要な施策と考える。学校図書館ボランティアを積極的に活用するとともに、地域図書館との連携を深め、子どもたちが楽しんで本に関わることができる取組を進められたい。さらに、「読書」に親しむ区民育成のためにも、中央図書館改築と合わせ、「0歳児からの読書」「絵本のまち板橋」というメッセージとともに、区長部局とも連携し、「読み聞かせ」や「絵本づくり」、「ビブリオバトルの開催」等の施策を大々的に打ち出すことを検討されたい。</p>		
対応状況	一部対応済	学務課・中央図書館
<p>○図書館（学校）支援事業業務委託により、学校図書館ボランティア研修の実施を行うなど、ボランティアの活動支援や育成を行った。これにより、週1日の司書配置という条件の中で、ボランティアによる開館時間の拡大等に努め、子どもたちの学校図書館利用を推進している。</p> <p>○委託事業者による司書の研修や学校巡回などにより、各校の好事例を全体で共有し、子どもたちの興味を引く取組を積極的に行っている。また、地域図書館の団体貸出を活用し、調べ学習の支援を充実させるなど、読書活動の推進に努めている。</p> <p>○読書活動の支援は、新しい中央図書館の開館による新しい事業展開を検討する中で対応する。また、中央図書館が中心となって区立図書館全館の魅力ある施策を打ち出していく。</p>		



重点施策2 豊かな人間性の育成				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○アントレプレナーシップ教育については、限られた学校では実践されているが、小中学校全体としての取組にはなっておらず、特に中学校においてはキャリア教育について再構築すべき時がきていると思われる。職場体験することがキャリア教育ではなく、アントレプレナーシップ教育のめざすゴールを把握し、創造的な思考が伴うカリキュラムについて検討されたい。また、教育支援センターが作成した小中一貫教育資料の活用について周知に努められたい。ゲストティーチャー等により、多種多様な職業や多くの大人と交流することは子どもたちにとって良い経験となる。今後も、企業や地域との連携体制を強化し、より実践的な内容の充実を図られたい。</p>				
対応状況	一部対応済		指導室	
<p>○アントレプレナーシップ教育については、小学校の成果を中学校で発展させることが難しい状況にある。小中一貫教育の取組の一つとして、キャリア教育のカリキュラムを作成し、中学校でもアントレプレナーシップ教育を推進していく。</p> <p>○平成30年度には、キャリア教育プロジェクトチームにより、進路指導副読本「私たちの進路」を改編した。各学校では、本副読本を活用しながら、ゲストティーチャー等の地域人材を取り入れた授業を今後も展開していく。</p>				
<p>○「絵本のまち板橋」の推進として実施されている絵本づくりワークショップは大変有意義な取組である。また、ポローニャブックフェアや国際絵本翻訳大賞の実施についても、子どもたちの読書・創作活動の推進へ着実に成果をあげている。引き続き各事業に取り組まれるとともに、絵本づくりワークショップについては、どの子どもたちも小・中学校で体験できる事業展開を検討されたい。</p>				
対応状況	対応済		中央図書館	
<p>絵本づくりワークショップ、ポローニャブックフェア、国際絵本翻訳大賞については引き続き実施していく。絵本づくりワークショップについて、令和元年度から、小学生は区内各地域の図書館を活用した区内全域で開催できる事業形態に改める。また、中学生を対象とする絵本づくりワークショップを行う。</p>				
<p>○いじめ防止対策については、いじめアンケート調査やいじめに関する授業をそれぞれ年3回行うなど、各校の積極的な取組により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につながってはいるが、解決や対応方法、再発防止等については課題もある。中学校では生徒会を中心にいじめ防止についての活動も盛んになり、自ら考えるようになってきている。子どもたちの意識が変わり、状況が変わっていくことを期待する。ただ、現場の声を聞くと、大人のいじめに対する認識の甘さを感じずにはいられないので、今後はその対応についても検討されたい。平成30年度から、「特別の教科道徳」が小学校で正式な教科としてスタートし、平成31年度からは中学校でスタートする。いじめ防止対策も含め、各校において質の高い授業を行うためにも、「考え 議論する道徳」のあり方について、教育委員会主導での学校による偏りのない充実を期待する。</p>				
対応状況	一部対応済		指導室	
<p>いじめ防止対策については、全校でいじめアンケート調査（年間3回）やいじめに関わる研修、いじめに関する授業を年間3回（学期に1回）、そのうち1回を保護者や地域に公開するなど、いじめ防止に向けて取り組んでいる。いじめに関する授業の保護者や地域への公開については、多くの学校で道徳授業地区公開講座とあわせて実施している。道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の方々、参加者による意見交換会もあわせて実施しており、大人の理解啓発も図っている。指導主事の講師派遣も多く、今後も「考え 議論する道徳」の充実に向け、授業の質の向上とともに保護者・地域の方々の理解啓発を図っていく。</p>				

○ESDについては「板橋区環境教育推進プラン2025」や「環境教育カリキュラム」が後押しとなって、推進校を中心に取組が充実してきている。エコポリスセンターとの連携も期待できる場所であるが、今後はIoTを活用した環境保全プロジェクトなどと連携したESDなどの事業展開を検討し、グローバル人材の育成につなげられたい。また、環境教育やユネスコスクールについて、子どもたちが自分のいる環境が時間とともに変化することを理解し、実際に交流や体験をすることで、外からみた自分の環境を考え、それをアウトプットする力を身に付けることが重要である。こうした視点を踏まえ、環境教育の推進に取り組まれたい。

対応状況	一部対応済	指導室
<p>○ESDについては、各学校とも教育課程に位置付け、総合的な学習の時間を中心に、各教科で取り組んでいる。特に研究推進校では授業実践を重ね、グローバル人材の育成に尽力している。</p> <p>○ユネスコスクールには小学校2校が指定され、現在、小学校1校、中学校2校が申請中である。ユネスコスクール指定校の児童は、エコポリスセンターから環境大使として任命され、ESDをテーマにして学んだことを発信する役割を担っている。今後も、探究型の学習を進める中で、環境教育の推進に取り組んでいく。</p>		

重点施策3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○オリンピック・パラリンピック教育については、各校とも様々な取組が行われているようであるが、具体的に何をしているのかが見えてこない。レガシーという視点からも、各校のねらいや取組の進捗状況などの情報共有ができるよう工夫されたい。また、パラリンピックと障がい者教育や人権教育との結びつきを意識した取組や、郷土愛という視点から板橋区の郷土芸能や歴史等にも関心が深められる取組を推進されたい。				
対応状況	一部対応済		指導室	
オリンピック・パラリンピック教育については、各校とも様々な工夫を凝らし、取組を行っている。板橋区オリンピック・パラリンピック教育重点校については、その取組を実践報告書にまとめ、各学校に配布することで周知を図ることができた。今後も重点校を中心に、レガシーとして続けていける取組と実践を各学校に発信し、オリンピック・パラリンピック教育の充実をめざす。				
○子どもの健康づくり事業については、(株)タニタとの連携により、指定校3校での取組が着実に成果をあげ、「いたばしライフスタイル」を作成できた。今後は子どもたちが主体的・継続的に取り組むことができる「いたばしライフスタイル」となるよう、教育委員会としての方向性を明らかにし、具体的で実効性のある取組を検討されたい。				
対応状況	対応済		教育支援センター	
「いたばしライフスタイル」を作成し、児童に健康意識を高める指導の在り方を確立した。自分の運動量や、食の傾向、睡眠時間を調べることで、自分の体の状態を知り、改善に向けた方法を考え、実践する健康づくりのPDCAサイクルを策定し、実効性のある具体的な取組を行うことで、健康づくりへの児童の意識が高まっている。				
○板橋区版英語村事業については、時機を捉えた素晴らしい事業であり、小学生の応募が非常に多いことは区民ニーズの表れと考える。次年度以降もぜひ継続されたい。また、海外の小・中学生と連携して国際的な課題を議論できるような遠隔授業やクラウド型コミュニケーションツールの活用なども検討されたい。				
対応状況	一部対応済		生涯学習課	
二次評価結果の指摘事項にもあるように、小学生の応募が非常に多い状況に対応するため、予算範囲内での実施回数の適正化を検討している。あわせて、将来的に海外の方と議論ができるよう、多文化に対する理解促進や、学習した英語の実践機会として、区内大学の留学生との交流会を検討している。				
○学校給食における安全対策の充実では、食物アレルギーを持つ児童・生徒が増加し、重篤なケースも多いことから、医療機関との連携を強化し、緊急時に直接連絡がとれるホットラインなども検討されたい。また、家庭や地域医療機関との情報共有や複合要因に対するリスクアセスメントを意識して対策強化を行い、子どもたちの健康増進に努められたい。				
対応状況	一部対応済		学務課	
○ホットラインなどについては、経費の面もあり検討中である。 ○家庭や地域医療機関との情報共有や複合要因に対するリスクアセスメントを意識した対策強化については、研修等を通じて保護者・学校関係者・学校医等と共通理解を図っているところである。				

○オリンピック・パラリンピック教育を進める中で、学校給食とも関連させて、子どもたちがアスリートの食事や食品の原産国などに興味をもち、自分の体を作っているものが毎日の食事であることを知り、食事の重要性について学ぶことができるような取組についても検討されたい。

対応状況	一部対応済	指導室
<p>食育部会を年4回開催し、小学校1回、中学校1回で実践授業を行った。その際、食事の重要性にも触れながら授業を行った。板橋区産の野菜を使用した給食は1回、産地直送食材による給食は3回実施した。また、毎月1回はオリンピック・パラリンピック給食を実施し、各国の食事について学ぶ機会を設定した。</p>		

重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○子どもの学びを保障するという視点から教師の指導力は必要条件であり、教育支援センター主催の各種研修が現代的課題を捉え、魅力あるものになっていることは高く評価できる。今後は、保護者、地域の方々向けの講座や研修の開催等を検討していくため、地域教育力推進課と連携・協働して取り組まれない。				
対応状況		一部対応済		教育支援センター
保護者や地域の方々向けの講座等については、板橋アカデミーで周知を図り、参加していただいている。今後、さらに拡充を行える講座や研修等がないか模索していく。				
○板橋アカデミーでは、毎回素晴らしい講師を迎え、グループワークや日頃聞けない刺激的な話やプレゼンテーションにより充実した時間となっている。教員の指導力向上に有効な取組であると感じられるため、板橋アカデミーの実施による効果検証を検討されたい。				
対応状況		対応済		教育支援センター
板橋アカデミーの受講者の約95%の方が授業の実践に役立つと肯定的に捉えている。今後も教員の指導力向上につながるような講演内容を検討し、設定していく。				
○中高生勉強会については、順調に参加登録者数を増やし、学習面のみならず、子どもたちが安心して過ごせる居場所となっていることを高く評価する。開催回数は十分ではあるものの、参加人数が計画の半数程度であるため、さらなる周知と内容の充実に努められたい。また、福祉事務所所管の学習支援事業である「まなぶ一す」との連携も検討されたい。				
対応状況		対応済		生涯学習課
○周知については、区立中学校及びフレンドセンター、区内都立高校を通じた生徒への事業案内チラシの配布に加えて、教育広報、いたばし教育チャンネルへの掲載を行っている。さらには、子ども政策課所管の「ひとり親家庭サポートブック」への掲載や、ひとり親家庭の相談会でチラシ配布を行った。区内の児童養護施設に対してもチラシを送付し、事業への理解と入所者への案内を依頼した。				
○「まなぶ一す」との連携については、福祉事務所と担当係間で話し合いの機会を設けた。連携の一環として、「まなぶ一す」の参加者にも中高生勉強会の周知を図るため、事業案内のチラシ配布を行った。				
○スクールソーシャルワーカー（SSW）については、保護者支援という視点からも大きな成果をあげているが、依頼が多く迅速な対応が厳しい状況となっている。不登校対策や家庭教育支援に対する具体的な成果を示し、さらなる増員を検討されたい。				
対応状況		検討中		教育支援センター
平成30年度は、子ども家庭支援センターと連携を密にし、連携協議会を初めて開催したり、要保護児童対策地域協議会に出席したりした。また、地区民生・児童委員の連絡協議会にも出席するようになり、地域レベルにおいてスクールソーシャルワーカーの活動を普及し、理解を深めてもらうことができた。その結果、不登校対策を中心とした支援の派遣要請が精査されつつ、対象者数が増加した。今後は家庭教育支援チームとの連携や緊急支援も含めて、よりきめ細やかで迅速に対応していくため、さらなる増員を検討していく。				

○特別支援教室については、利用者が増加していく中で、今後は専門的な指導技術の向上が求められる。巡回指導教員と在籍学級の教員が緊密に連携し、指導内容の充実が求められる。		
対応状況	一部対応済	指導室
在籍学級教員が特別支援教室での指導を参考にし、個々に応じた適切な指導・支援の工夫が行われることで、全児童が分かりやすい指導や支援を受けることが可能になる。また、巡回指導教員が在籍学級教員に助言等を行うことにより、在籍学級の運営や児童・生徒の安定につながる。特定の教員のみでなく、関係する教員で情報を共有し、連携を図りながら指導・支援体制を充実させていく。		
○不登校の背景には、本人や家庭、学校に係わる様々な原因が絡み合っている。不登校初期の段階でフレンドセンター等につなげられるよう、学校・フレンドセンター・教育委員会で検討されたい。加えて、フレンドセンターについては、不登校の子どもたちにとって魅力ある環境づくり等を研究し、改善が求められる。		
対応状況	一部対応済	指導室
不登校の背景には、本人や家庭、学校に係わる様々な原因が絡み合い複雑化している。個々の状況を的確に把握し、それぞれに応じた適切な対応が求められる。フレンドセンターをはじめとして、個々に適した環境につなぐことができるように、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家と一層連携を図りながら対応していく。		
○不登校児童・生徒の増加により学校だけで対応することが困難となっている。不登校改善重点校事業では、「家庭と子供の支援員」を活用し、不登校が減少傾向にあることから、学校・地域・SSWが連携した取組を進める必要がある。このような取組を家庭教育支援チームのモデルケースとして、実施に向け速やかに進められたい。		
対応状況	対応済	地域教育力推進課
不登校児童・生徒の情報を把握している学校、家庭への支援の中心となる民生・児童委員、専門的な立場による支援を行うスクールソーシャルワーカーとそれぞれ調整を行い、平成31年2月より常盤台小学校・志村第四中学校において、地域・学校・教育委員会が連携した家庭教育支援チーム（モデル）の運用を開始した。今後は、支援が必要な家庭のニーズを把握し適切な対応ができるよう、支援者の養成を図っていくとともに、学校側の理解を高め、対象家庭の信頼を得て、チームとしての一体感を醸成していく。		

重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○2020年度から全校実施する小中一貫教育に向けて、定例校長会等での「学びのエリア」での定期的な話し合いによって、22のエリアでの取組が活発化しているように感じる。中学校の校長がイニシアチブをとるようになってきていることも良い結果につながっている。先進的な取組については、各校へ情報発信を行い、教員や児童・生徒、保護者との共通理解が深められるよう努められたい。				
対応状況		対応済		教育支援センター
学びのエリアでの取組内容は、研修終了後にエリアの代表校から報告をいただいている。いただいた取組内容を一覧にし、学校に情報を発信し、共有を図った。				
○「学びのエリア」を活かした小中一貫教育の推進では、小・中学校の教員が校種を超えて協力し、小中一貫指導資料を作成したことに意義があった。作成された資料が有効に活用されるよう周知されたい。				
対応状況		対応済		教育支援センター
小中一貫指導資料は、教育の板橋課題研修「小中一貫による学力向上」の中で教科等での活用について取り上げ、資料等の活用等について周知を図り、9年間の系統的な指導について推進を図った。				
○小中一貫教育では、児童・生徒個々の成績、生活態度等を小学校から中学校へ確実に引継ぎ、個性にあわせて育むことが重要である。いわゆる中一ギャップや不登校を抑制することにつなげていくための事業展開を進められたい。				
対応状況		一部対応済		指導室
学びのエリアを基本とし、小中一貫教育を進めている。学びのエリアでめざす子ども像を明確にし、各学校で「板橋区授業スタンダード」の徹底を図り、エリア内で授業規律やノートの取り方等の共通理解をすることで、中一ギャップを少しでも解消するよう取り組んでいる。また年間3回以上、学びのエリア別研修会を開催し、互いの授業を見合うことで、学習内容の連続性や指導法の工夫等に目を向けるようにし、教員の資質向上をめざす。				
○区立幼稚園をインクルーシブ教育推進の拠点とする施策は非常によい方針転換である。私立幼稚園との具体的な連携方法について検討されたい。また、区民ニーズに対応した3年保育や預かり保育については今後の見通しを明確にされたい。				
対応状況		検討中		学務課
○私立幼稚園との連携については、訪問等による現状把握や意見交換等を基に、具体的な連携方法を検討していく。 ○区立園の3年保育や預かり保育については、区立幼稚園のあり方検討を進める中で検討し、私立幼稚園協会とも協議したうえで今後の見通しを明確化していく。				
○読書活動の推進については、中央図書館の改築とあわせて、「読み聞かせ」「音読」「絵本づくり」など生涯学習としての読書の位置づけをロードマップとして、区長部局とも連携をしながら具体的な施策展開を検討されたい。				
対応状況		一部対応済		中央図書館
各取組状況については、「板橋区子ども読書活動推進計画2020」に基づき、5か年計画の中で進捗管理しながら、各所管課と連携している。なお、「絵本づくり」については、産業振興課と連携して絵本づくり体験を行っている。その他、子育て世代を対象に関係課とPRスポットの設置を行っている。				

重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○「スマートフォン・携帯電話等情報端末使用ルール」については、既に配布しているリーフレットが各家庭でより一層活用できるよう周知・啓発を図られたい。また、「家庭でのルールをつくった」「ルールを守れた」という事業指標の割合が高くなるよう具体的な取組を工夫されたい。その際、ゲーム依存症がWHOで疾病扱いとなるなど、使い過ぎによる心身の健康を阻害することの科学的根拠を紹介するなど配慮されたい。一方で、スマートフォン・携帯電話等情報端末は、有効な活用を促す捉え方も必要である。プログラミング教育等において活用事例を指導するような取組についても検討されたい。</p>				
対応状況		対応済		地域教育力推進課
<p>令和元年度配布分より、以下の内容を刷新した。            ①WHO がゲーム依存を疾病と認定したことに対し、板橋区医師会作成の文言を記載            ②都の「自撮り被害」防止条例について記載            ③SNS 上での出会いについて注意喚起            有効な活用の促しについては学習アプリの活用について簡単に記載。(アプリ名等詳しく紹介すると企業の紹介になるため)</p>				
<p>○適正規模・適正配置については、児童・生徒数の増減に配慮し、引き続き慎重かつ丁寧に対応されたい。また、通学区域の変更についても、最近の学校事情や子どもの現状を踏まえ、学区域内の町会などと慎重に話し合って進められたい。</p>				
対応状況		一部対応済		学校配置調整担当課
<p>平成30年度は、学校の通学区域変更についての事案は発生しなかった。令和元年度の「いたばし魅力ある学校づくりプラン前期計画第2期対象校対応方針」の公表に向けて、児童・生徒数の将来推計や、学校施設・校地の状況、小中一貫教育を推進する視点など多様な条件を総合的に考慮し、学校の適正規模・適正配置と持続可能な教育環境の整備について検討を行った。また、通学区域の変更が必要な場合には、対象学校や区域内の町会などと慎重かつ丁寧に話し合いを進めていく。</p>				
<p>○区立学校の改築・改修については計画的に進められているが、トイレの洋式化など、時代の変化に対応して行う工事についても検討されたい。</p>				
対応状況		一部対応済		新しい学校づくり課
<p>区立学校のトイレ洋式化については、各階1箇所は既に終了している。残る箇所についても順次対応を行っている。また、省エネルギーや環境負荷低減を考慮し、体育館照明改修を計画的に実施し、体育館照明のLED化などを進めている。その他、時代の変化により求められるものについても検討し、対応を行っている。</p>				
<p>○電子黒板やタブレットなどのICT機器はかなり充実してきており、活用方法も良い事例が見られるようになってきた。同時にデジタル教科書の導入が進み、多くの学校で効果的に使われるようになってきている。ICT機器の導入により、児童・生徒一人ひとりが今まで以上に積極的に授業に取り組める活用が必要となるため、研修やICT支援員によるサポートの充実を図られたい。</p>				
対応状況		対応済		教育支援センター
<p>ICT支援員による学校訪問サポートの実施、ヘルプデスクの設置などの支援を行っている。また、「ICT機器の効果的な活用実践研修」「次世代ICT活用推進研修」など、ICTに関する各種研修を実施している。また、次期教科書改訂に合わせて、全小中学校へのデジタル教科書の導入拡充を検討する。</p>				



○安全教育の推進では、各校で計画に基づき実施され、交通事故件数が減少した。今後も交通事故以外の地震発生や天候の急激な変化など様々な危険に対し、児童・生徒が自ら考え行動し、身を守ることに重点を置いた安全教育を推進されたい。

対応状況	一部対応済	指導室
------	-------	-----

各学校では、安全教育の年間指導計画に基づき指導を行っている。毎月、地震、火災、風水害、不審者等、様々な状況における避難訓練を行い、有事に備えている。また、交通安全教室やセーフティ教室において、自分の命は自分で守る指導も行っている。社会科や総合的な学習の時間に「地域安全マップ」を作成し、安全についての意識を高め、自ら考えて行動できる子どもの育成に取り組んでいる。

○地域防犯については、防犯カメラの設置が進み、通学路の安全対策も整いつつある。引き続き、地域住民との連携や情報共有に努められたい。

対応状況	対応済	地域教育力推進課
------	-----	----------

関係機関や見守りボランティア、地域住民と連携し、通学路の安全対策に取り組んでまいりたい。

重点施策7 地域による学び支援活動の促進				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○学校支援地域本部事業は、計画通りに実施校数も増え、学校支援ボランティアも計画数以上となり活発に活動している。次は各校での良い取組について情報共有を図り、成果の拡大につなげられたい。また、多くの学校支援ボランティアがやりがいを感じられる取組の充実を図られたい。				
対応状況		対応済		地域教育力推進課
各校の活動状況をまとめた冊子を作成し、関係者に配付した。また、特色ある取組については、教育広報で広く区民に周知を図っているところである。				
○平成30年度にコミュニティ・スクール推進委員会が10校に設置され、学校や地域において意識が高まり、平成32(2020)年度の本格実施に向け順調に進んでいる。地域において、コミュニティ・スクールに対する理解、イメージの共有を進めるとともに、学校においても、校長、副校長以外の教職員が目的や仕組みを理解するための機会の確保を検討されたい。				
対応状況		対応済		地域教育力推進課
コミュニティ・スクール推進委員会が設置された10校では、各校で校長・副校長からその意義について周知が行われ、いくつかの学校では、広く教職員が熟議に参加し、地域人材との対話を通じてコミュニティ・スクールの理解に努めた。また、他の学校では、コミュニティ・スクール学習会が設置された。夏には、コミュニティ・スクールについてのシンポジウムを行い、さらなる理解に努めた。今後も積極的に周知に努めていきたい。				
○学校支援地域本部とコミュニティ・スクール委員会は両輪・協働の関係とあるが、関わる地域人材が双方を同じものと捉えている場合が多く見受けられる。それぞれの果たす役割や位置付けなど、区民への理解も含めて十分に検討されたい。				
対応状況		一部対応済		地域教育力推進課
コミュニティ・スクールや学校支援地域本部については、青少年健全育成連合会総会で周知をはかり、また地域センターを通じて、各町会等への周知を検討してきた。令和元年度からは、担当が各地域センターを巡回し、町会長等に説明を開始したところである。				
○学校現場を取り巻く環境が厳しさを増している中、保護者・地域の学校教育への支援は質の高い教育や個別指導の推進等に欠かすことのできない条件となっている。本区においては学校支援地域本部の着実な歩みにより、地域の方々の学校支援が各学校で見られている。この成果の上に、学校運営に関しても、これまでの教職員だけによるものから、PTA役員や地域の有識者をコミュニティ・スクール委員会委員に任命し、当事者意識をもった学校スタッフとして積極的に活用していくことが学校や地域の活性化につながっていくと考える。そのためにも、校長をはじめとする学校関係者が、良い情報も悪い情報もPTA・地域と共有し、課題を解決していくという意識改革を図る取組を推進されたい。				
対応状況		対応済		地域教育力推進課
コミュニティ・スクールの意義については、校長をはじめとする学校関係者に、機会のあるごとに、広く周知・啓発を行ってきたところである。地域との情報共有・課題解決は、コミュニティ・スクールがよりよく機能するために必要であることから、これからも、当区に新たに赴任する校長・副校長をはじめとする学校関係者に対して、コミュニティ・スクールの意義について啓発していく。				

<p>○地域人材については、各学校で一人が複数の役割を担っているケースが多いため、選任する過程でのルールづくりや、人材発掘の方法、兼任している人への配慮等検討されたい。なお、地域には学校に協力したくてもどのように学校とつながってよいのか悩んでいる方が散見される。地域教育力推進課が中心となり、教育支援センターと連携し、学校まかせにしない体制作りに努められたい。学校だよりや学校のホームページ、区の広報等を活用して積極的に広報活動にも取り組まれたい。学習支援人材に関わる人材確保については、学校支援ボランティアと学校双方の希望に沿った運用が難しいため、減少傾向にある。大学や企業との連携を密にし、人材確保に努められたい。</p>		
対応状況	一部対応済	教育支援センター 地域教育力推進課
<p>○地域コーディネーターの選任（令和元年度以降は委嘱）は、1校最大5名可能であり、当課では、複数名を選任（委嘱）し、チームで活動することを推奨している。また、特色ある学校の取組は教育広報で周知している。地域人材の確保については、いたばし総合ボランティアセンター等と連携し、検討しているところである。</p> <p>○学習支援ボランティアについては、各大学との連携を密にし、学生に向けた丁寧な説明を行うとともに、区内学校園の要望とボランティアを希望する学生とのマッチングを丁寧に行い、適宜個々の学生と調整するなど、きめ細やかな対応を図った結果、前年度より多くの学生にボランティアとして学校に派遣することができた。</p>		
<p>○各校であいキッズ事業が順調に進められ、高い満足度が得られている点は評価できる。今後も、子どもの安心・安全を第一に委託法人との関係性を密にし、学びへの興味・関心を高めるプログラムの充実等に向け、積極的な支援を進められたい。</p>		
対応状況	対応済	地域教育力推進課
<p>本年度も、利用者の満足度が概ね維持できている。今後も、子どもの安心・安全を最優先にしつつ、学びへのプログラムを充実させていきたい。</p>		

重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
<p>○社会教育会館を生涯学習センターと改称し、中高生・若者の居場所である「i-youth」を設置したことにより、シルバー世代中心の施設から、多世代が集う場所となった。来館者数が増加している現状は現場スタッフの工夫による成果である。また、学校へ通えない子どもたちが足を運んでいるという状況も良い循環が起こっている。今後はフレンドセンターに類する子どもたちの居場所としても機能することを期待する。また、来館する青少年の自発的な企画運営事業を推進するとともに、まなぼと作品展やサークルフェスティバルなどへの参加を促し、活動の場所を広げることで、世代を超えた交流が進められていくことを期待する。</p>				
対応状況	一部対応済		生涯学習課	
<p>学校へ通えない子どもたちが来所していることを生かし、成増生涯学習センターでは中高生勉強室をスタディルームにリニューアルし、学校に行けない中高生に加えて、小学生の一部も受け入れる態勢づくりを進めている。フレンドセンターの分室機能を担うことを生かして、この事業との相乗効果が発揮できるよう取り組んでいるところである。また、来館する青少年の自発的な事業の企画運営の推進については、i-youthダンスフェスタで実行委員会を結成して取り組んだ。まなぼとフェスタでは青少年が卓球大会の企画運営に関わる機会づくりにも取り組んでおり、活動の場を広げ、世代を超えた交流をさらに進めていく予定である。</p>				
<p>○教育科学館は、施設の改修工事も完了し、改めて区民に注目してもらえる施設として魅力的な運用が求められている。理科教育やプログラミング教室など年間を通じて区民のニーズに応えられるような運用プログラムの充実を図りたい。</p>				
対応状況	対応済		生涯学習課	
<p>○平日は小学校の移動教室として、プラネタリウムや実験器材等科学館ならではの設備を活用し、理科教育を実施している。また、区立学校の長期休業期間や連休を中心に、区民が参加できる科学教室やワークショップ等を実施している。</p> <p>○プログラミング教室については、昨年度に引き続き習熟度別のロボットプログラミング教室を開催することに加え、ファーストレゴリーグチームの結成・東日本大会への出場や、1階ホールに気軽にプログラミングを体験出来るコーナーを設置する等、プログラムの充実を図った。今後も、区民のニーズを汲み取りながら、事業を計画・実施していく。</p>				
<p>○少年自然の家八ヶ岳荘は施設の整備が進められ、今後は多岐にわたる活用が期待できる計画となっている。合理的な運用や年間イベントの企画立案、企業誘致活動など積極的に取り組まれない。</p>				
対応状況	一部対応済		生涯学習課	
<p>パンフレット、ポスター作成や広報いたばし特集号への掲載等での周知により、個人利用の増加及び利用団体の拡大が図られている。今後は、旅行会社とのタイアップや観光大使を活用したプロモーションビデオ作成等により、新たな団体の獲得に向けて動き出している。また、閑散期での新たな事業展開も視野に入れ、今後指定管理者と協議していく。</p>				

<p>○図書館が区民に対して担う役割は重要になってきている。図書館運営にボランティアが関わる「図書館サポーター制度」への移行により、ボランティアの活動の場が広がり、読書活動の推進やサービスの充実につながることを期待する。新制度の内容を広く周知し、新たな人材の育成、確保に努められたい。</p>		
対応状況	対応済	中央図書館
<p>平成30年6月に、現登録ボランティアを対象に新制度に対する説明会を実施し、新たな活動内容について周知した。サポーターの登録も年度内に完了している。また、サポーター制度への移行に向けて、平成31年3月にサポーターへの情報交換会を実施した。本年度から新制度として開始しており、養成講座も引き続き実施し新たな人材の育成、確保に努める。新制度の内容を広く周知するため、サポーター専用のホームページも作成している。</p>		
<p>○「とびだせ！としょかん！」イベントは、改めて区民の方々の読書への関心の高さを知る良い機会となった。「絵本のまち板橋」を浸透させるために、さらなる具体的な取組を進められたい。また、「読書通帳」については、感想や読書数などで優秀な子どもたちなどを教育委員会のホームページで紹介したり、広報誌に掲載するなど、周知方法を工夫されたい。</p>		
対応状況	一部対応済	中央図書館
<p>○「板橋区子ども読書活動推進計画2020」に基づき、具体的な取組事業を進めている。 ○小中学生向け「読書通帳」は、平成29年度に事業を開始し、全児童・全生徒に配付している。毎年、新1年生と転入生に配付し事業を継続する。在学中の有効活用や周知方法について、学校と協議しながら工夫していく。</p>		
<p>○史跡公園、旧粕谷家住宅、郷土資料館を中心に、板橋区内の神社仏閣なども入れた板橋の歴史巡りなどで多くの人々が訪れる施策を期待したい。また、古い時代のものから旧野口研究所のような近代化遺産に至るまでの流れがまとめられた案内資料の作成や、技術史としての捉え方についても検討されたい。</p>		
対応状況	一部対応済	生涯学習課
<p>○史跡公園に関しては、近接した中山道板橋宿の史跡・文化財との連関を重視した、史跡の整備と活用の方向性を有した計画がなされている。 ○板橋地域においては、江戸時代の宿場・神社仏閣から近代化の歴史を俯瞰した、地域の評価と整備・活用の実現化に向け計画策定がなされる予定である。 ○旧粕谷家住宅や郷土資料館が所在する赤塚地域については、江戸東京の近郊農村地域で継承されてきた田遊びなどの無形民俗文化財の公開事業や、神社仏閣を基盤とするスタンプラリーと散策ルートなどの構築が実施化されつつある。 ○区の歴史全般についても、その対象が近代遺産に及ぶ中、今後の保存活用にむけて、時間的な広がりや学際的視点が求められており、技術史的な分野なども取り込んでいく。</p>		
<p>○郷土資料館や郷土芸能伝承館等ではいろいろと工夫がなされている。今後は、区民からのアイデアを募集したり、専門家だけではなく区内の大学生や知識人等の意見を取り入れるなど柔軟に対応し、より充実した事業を展開されたい。</p>		
対応状況	対応済	生涯学習課
<p>○郷土資料館については、甲冑づくりや鉄砲隊の活動など区民との協働が実現し、農業まつりや区民まつりなどの場面で公開や実演がなされており、区民のアイデアが取り込まれている。また、淑徳大学との関係性においては、博物館館務実習生の受け入れのみならず、郷土資料館館蔵資料や文化財を活用した講義が実施されており、その基本的な関係性は構築されている。 ○郷土芸能伝承館については、その運営に無形民俗文化財の保存団体が一定度参画しており、同館の自主事業においては、さらなる展開が想定される。今後もこれらの活動をベースとして、さらなる事業の充実を図っていく。</p>		

重点施策9 家庭における教育力向上への支援				
前年度の二次評価結果	評価評語	維持	改善の方向性	事業手法の見直し
<p>○乳幼児に対する虐待や、単親家庭、貧困家庭といった家庭状況の複雑化により、大変困難さを伴う家庭教育への支援にとって、「家庭教育支援チーム」の果たす役割は重要なものであると考える。しかし、現状でも民生・児童委員による同様なケアは行われており、事業の再構築を検討されたい。教育委員会としては、不登校児童・生徒にターゲットを絞り込んだ施策展開を期待する。</p> <p>不登校児童・生徒を抱える家庭・保護者の支援並びに学校における対応強化のため、スクールソーシャルワーカー（SSW）・地域・学校による「家庭教育支援チーム」の取組が必要である。モデル実施を行う中で、「i-youth」との情報共有やコミュニティ・スクールとの連携も視野に入れ、「家庭教育支援チーム」の可能性や方向性について検討されたい。</p>				
対応状況		一部対応済		地域教育力推進課
<p>支援者による「フレンドセンター」「学びiプレイス」等の子どもの居場所の見学や、コミュニティ・スクールとの連携を視野に入れた学校との調整を通し、活動の活性化を図っていく。</p>				
<p>○「小学校入学前に身に付けたい生活習慣チェックシート」は、区長部局と連携し、さらなる利用促進を図られたい。なお、「中学校入学前に身に付けたい生活習慣チェックシート」については、「利用効果があった」という回答が低かったことを踏まえ、内容項目の改善に取り組まされたい。</p>				
対応状況		検討中		地域教育力推進課
<p>「小学校入学前に身に付けたい10の生活習慣」は、毎年4月に区内保育園・児童館を通じて配布している。園長会や各種事業においてさらなる活用の呼びかけを検討する。「中学校入学前に身に付けたい生活習慣」については、アンケート内容を詳細化することで、「利用効果があった」という回答が低い原因の追究に努めた。今後は、アンケート結果における「既に身に付いている項目」や「新たに身に付いた項目」の割合を基に、効果的に活用してもらえそうな内容項目の見直しを検討する。</p>				
<p>○年齢別講座については、参加者の悩みや思いを発信させる機会、個別相談やグループ討議に重きを置いて、参加型の研修を検討されたい。一方的な講義形式ではなく、アクティブラーニングを駆使した講座となることを期待する。</p>				
対応状況		対応済		生涯学習課
<p>家庭教育講座は、子育て中の保護者が就労のために役立つものや、障がいのあるお子さんがいる保護者の就労等をテーマとして設定した。実生活に基づいたテーマについて、ワークショップや話し合い学習を取り入れた参加型学習を展開している。</p>				
<p>○年齢別講座は、核家族化した区内の家庭にとって重要な取組であり、子育て講座交流会や家庭教育講座へと多岐にわたる展開を見せている。この取組を通じて、同じ悩みをもつ親同士が自主的な子育てサークルを立ち上げた点は高く評価できる。参加者のニーズを見極めた事業展開を図られたい。</p>				
対応状況		対応済		生涯学習課
<p>子育て中の保護者への聞き取りなどから、実生活に基づき、受講者が受け身ではなく、自主的に学びに係わることができると思われる内容と方法で講座を開催している。</p>				

すべての方向性に共通する事業				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○広報活動の充実については、教育委員会のホームページの活用や教育広報、教育チャンネルの発行を継続しながらも、情報更新を頻繁に行うことができるSNSの利活用を検討されたい。また、教育委員会の行っている事業について区長部局への理解を図るため、職員向けに教育チャンネルの配信を始めるなど工夫されたい。				
対応状況		対応済		教育総務課
板橋区統合アプリ「ITA-Port」を活用し、教育長や教育委員会事務局の学校訪問の様子を発信し、広報活動の充実を図っている。また、教育委員会の行っている事業や施策について区長部局への理解を図るため、職員ポータルサイトの新着情報への掲載や全職員向けに教育広報・いたばし教育チャンネルの配信を始め、対応済みである。				
○次期学び支援プランの3つの柱である、小中一貫教育・板橋区コミュニティ・スクール・教職員の働き方改革については、様々な機会を捉えて学校現場と教育委員会で情報交換し、保護者、区民への周知・理解を図っていく必要があるため、周知方法を工夫されたい。				
対応状況		対応済		教育総務課
区民への周知方法については、教育広報やホームページへの掲載、町会長会議での説明、生涯学習課の出前講座への登録等を行っている。また、身近な教育委員会にてテーマとして取り上げ、教育委員会と学校現場、保護者等と情報交換を行っている。今後も、様々な機会を捉え、区民等へ発信していく。				
○身近な教育委員会については、PTA役員や学校支援コーディネーターなどの学校関係者を招いて現場の声を基にしながら議論できると当事者意識もあり活発なものになる。また、大変良い試みであるので開催回数を増やすことも検討されたい。				
対応状況		対応済		教育総務課
平成31年2月開催の「身近な教育委員会・教育懇談会」においては、運営規模を拡大し、通常参加していただいているPTA役員等に加え、地域コーディネーター等48名も参加し、ともにグループ熟議を行うなど、より実践的な方法で現場の声を基にしながら議論した。これにより、教育活動への意識付けに大きく寄与することができた。開催回数を増やすことについては、各学期1回の開催を基本としつつ、開催内容・開催方法とともに、より保護者等にとって有益なものとなるよう検討を続けていく。				

○経営支援部の設置により、事務職員、用務主事などすべての職員が学校運営について参画意識をもつことで、校務の効率化が図られたことは評価できる。また、経営支援部による優良事例が、校務改善の着実な推進につながることを期待する。引き続き、事務職員等がやりがいをもって働ける職場環境の構築を推進し、「教員の働き方改革」へとつなげられたい。なお、「教員の働き方改革」については、教員の勤務実態を区民に理解していただくため、情報発信を進めていく必要がある。各会合で説明する等周知徹底を図られたい。

対応状況	対応済	教育総務課
------	-----	-------

○経営支援部を設置し、定期的に横断的な調整会議を行うことで、学校組織マネジメントの効率化が図られている。また、優良事例を校長会等で全校に紹介することで、校務改善の効果的な推進につながっている。次年度以降は、働き方改革の推進に経営支援部を活用していくため、年間活動計画に働き方改革に関する目標を1つ以上定めることとし、チーム学校として働き方改革に取り組んでいく。

○教職員の働き方を見直すことで校務全体の効率化を図り、教職員が健康で心身ともに充実して職務に専念することにより、最も重要な職務である児童・生徒への質の高い教育活動の実現をめざすため、「板橋区立学校における教職員の働き方改革推進プラン2021」を作成した。同プランの推進にあたっては、学校と区教委が協働し、保護者・地域社会の理解・協力を得ながら各取組を着実に実施していく必要があるため、積極的な情報発信に努めていく。

○教育委員会の点検・評価に対しては、チェック機能が働き、改善の見られる事業が多く、対応も早くなっている。外部評価委員の評価をいただくことは大変重要であり、客観的な視点での評価は、区民からの信頼向上にもつながると考えられるので今後も継続されたい。また、本質的な自己点検・評価を心掛け、各事業が着実に進歩できるよう評価結果を活かしてほしい。

対応状況	対応済	教育総務課
------	-----	-------

外部評価については、学識経験者（大学教授）2名、保護者代表2名を委員として登用し、率直な意見をいただくことができおり、大変有意義なものとなっている。次年度以降も継続して外部評価を行い、各教育施策が着実かつ効果的に展開できるよう推進していく。



特別に評価すべき事業 服務規律の確保（体罰・個人情報保護）				
前年度の二次評価結果	評価評語	順調	改善の方向性	工夫して継続
○体罰による服務事故0件は、各種研修や各学校での日常的・継続的な取組の成果である。今後も引き続き、服務事故根絶に向け邁進されたい。しかし、教員によるその他の服務事故が発生したことは非常に残念であり、子どもたちの心に大きな打撃を与えたことは反省材料とされたい。				
対応状況	対応済		指導室	
体罰による服務事故は、平成30年度においても0件であった。東京都内で発生している事例を活用し、今後も研修や指導・助言を継続して行き、「体罰ゼロ」に対する教員の意識の定着に努めていく。				
○個人情報保護については、学校関係者、社会教育関係者、業務委託事業者等全般に、意識の低さが強く感じられるため、リスクマネジメントの強化に努められたい。また、複数人でのチェック体制の確立や認証プリント方法への変更等、個人情報紛失事故の再発防止に向け早急な対応に努められたい。				
対応状況	対応済		指導室	
個人情報保護に関する服務事故は、平成30年度において2件発生した。紙媒体の個人情報の取り扱いについては、学期初めなど事故が発生しやすい時期に注意喚起及び周知徹底を図っている。今後も、複数人でのチェック体制の確立を含め、個人情報紛失事故の再発防止に努めていく。				
○パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等についても、研修、その他の指導により、注意喚起が必要と感じられる。今後も、未然防止の観点からインシデント事案や事故防止対策の好事例等も含めて情報を共有し、十分な検討議論を重ね、服務規律の確保に努められたい。				
対応状況	対応済		指導室	
パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等についても、東京都からの服務関係の資料等を活用し、具体事例を踏まえた指導を行っている。指導室に相談等があった際には、情報を共有するとともに、必要な指導を行っている。今後も継続して行き、未然防止に努めていく。				
○「教員の働き方改革」については、長時間労働や、児童生徒からの暴力行為、保護者対応等により、体調を崩してしまう教員が増えている現状を踏まえ、教員が心身ともに健康で職務を遂行できるよう、教職員、保護者、地域住民の意識改革、職場環境の向上等、迅速な対応が望まれる。				
対応状況	対応済		指導室	
平成29年度から教育総務課と連携し推進している「教職員の働き方改革」を通して、教員の心身の健康を維持・向上できる職場環境の整備を行っている。また、体調を崩してしまっている教員の情報についても、共有をしている。今後も継続して、職場環境の整備に努めていく。				

令和元年度  
教育委員会が行う点検・評価 報告書

板橋区教育委員会事務局教育総務課  
令和元年 10 月発行

刊行物番号
-------

31 - 87
---------